平成１７年度

―第１５回―

県民アンケート調査報告書

「地場産農産物の購入動向について」

新潟県総務部広報広聴課

目次

Ⅰ　調査の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　1

Ⅱ　調査結果
問１　　農林水産物の主な購入先・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　2
問２　　購入時に重視する点・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　5
問３　　購入時に優先する産地・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１７
問４　　県内産（地場産を含む）農林水産物の購入意識・・・・・・・・１９
問５　　「地産地消」の認知度・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３３
　問５－付問１　情報の入手方法・・・・・・・・・・・・・・・・・・３５
　問５－付問２　地産地消の普及活動に対する認知度・・・・・・・・・３６
問６　　地場産農産物を安定して購入するために必要なもの・・・・・・３７
問７　　地産地消の情報として必要なもの・・・・・・・・・・・・・・４０
問８　　食生活指針の実践について・・・・・・・・・・・・・・・・・４３
問９　　「食育」の認知度・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・４６
問１０　「食育」への関心度・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・４８
　問１０－付問　関心のある理由・・・・・・・・・・・・・・・・・・５０
問１１　地場産農産物や食育に関する自由意見・・・・・・・・・・・・５２

※　**利用にあたって**

１　結果は百分比で表示した。表及び解説の百分比は小数点第２位を四捨五入したため、合計が１００％に過不足することがある。

２　N（number of cases）は、回答者数を示し、百分比算出の基礎となっている。

３　１人の対象者に２つ以上の回答を認めたものは、その百分比の合計は１００％を超える。

Ⅰ　調査の概要

1　調査項目

「地場産農産物の購入動向について」

2　調査目的

県では、地域で生産された農林水産物をその地域で消費する“地産地消運動”を推進しています。

農薬や化学肥料、遺伝子組換えなど、消費者の食の安全・安心に対する関心がこれまでになく高まっている中で、安全で安心して食べられる新鮮な地場産農産物の生産や消費拡大を図るために、地産地消シンポジウムの開催や「地場産月間」の設定、農林水産物直売所への支援などの施策を実施してきました。

今回の調査は、平成１５年１０月に行った県民アンケート調査とほぼ同じ項目について県民のみなさんにお聞きし、地場産農産物の購入動向の推移や“地産地消”の認知度、ご意見やご要望等を把握し、今後の運動を推進する上での参考とします。

3　調査期間

平成１８年1月２７日（金）から2月１０日（金）まで

4　調査方法

郵便法

5　調査対象者

県民アンケート調査協力員（２００人）

6　回答者数

１８８人

7　アンケート調査回答者の構成

		対象者		回答者		回収率(%)
		実数（人）	構成比（%）	実数（人）	構成比（%）	
		200	100.0	188	100.0	94.0
性別	男　　性	100	50.0	94	50.0	94.0
	女　　性	100	50.0	94	50.0	94.0
年齢別	２０～３９歳	58	29.0	50	26.6	86.2
	４０～５９歳	70	35.0	70	37.2	100.0
	６０歳　以上	72	36.0	68	36.2	94.4
地区別	下越地区	27	13.5	26	13.8	96.3
	新潟地区	66	33.0	63	33.5	95.5
	中越地区	60	30.0	55	29.3	91.7
	魚沼地区	17	8.5	15	8.0	88.2
	上越地区	25	12.5	24	12.8	96.0
	佐渡地区	5	2.5	5	2.7	100.0

Ⅱ　調査結果

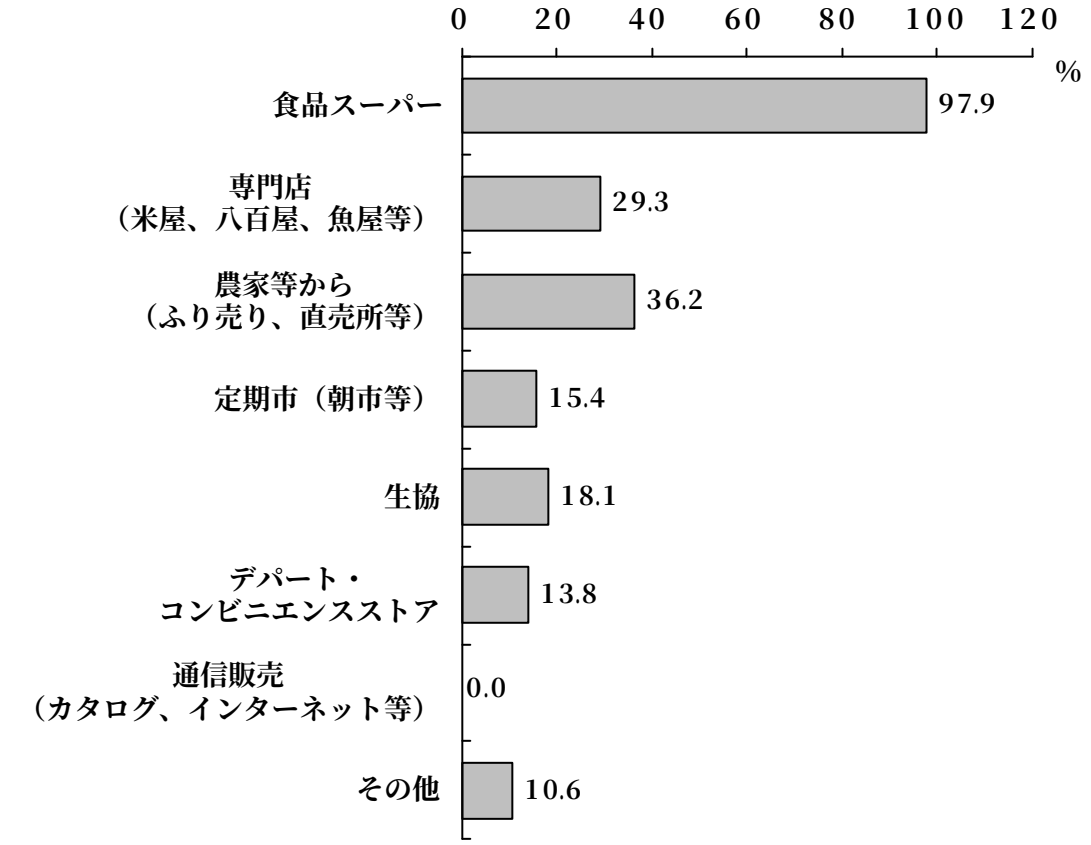
【農林水産物の主な購入先】

問１　あなたのご家庭では、農林水産物を主にどこから購入していますか。

（○は３つまで）

N＝１８８

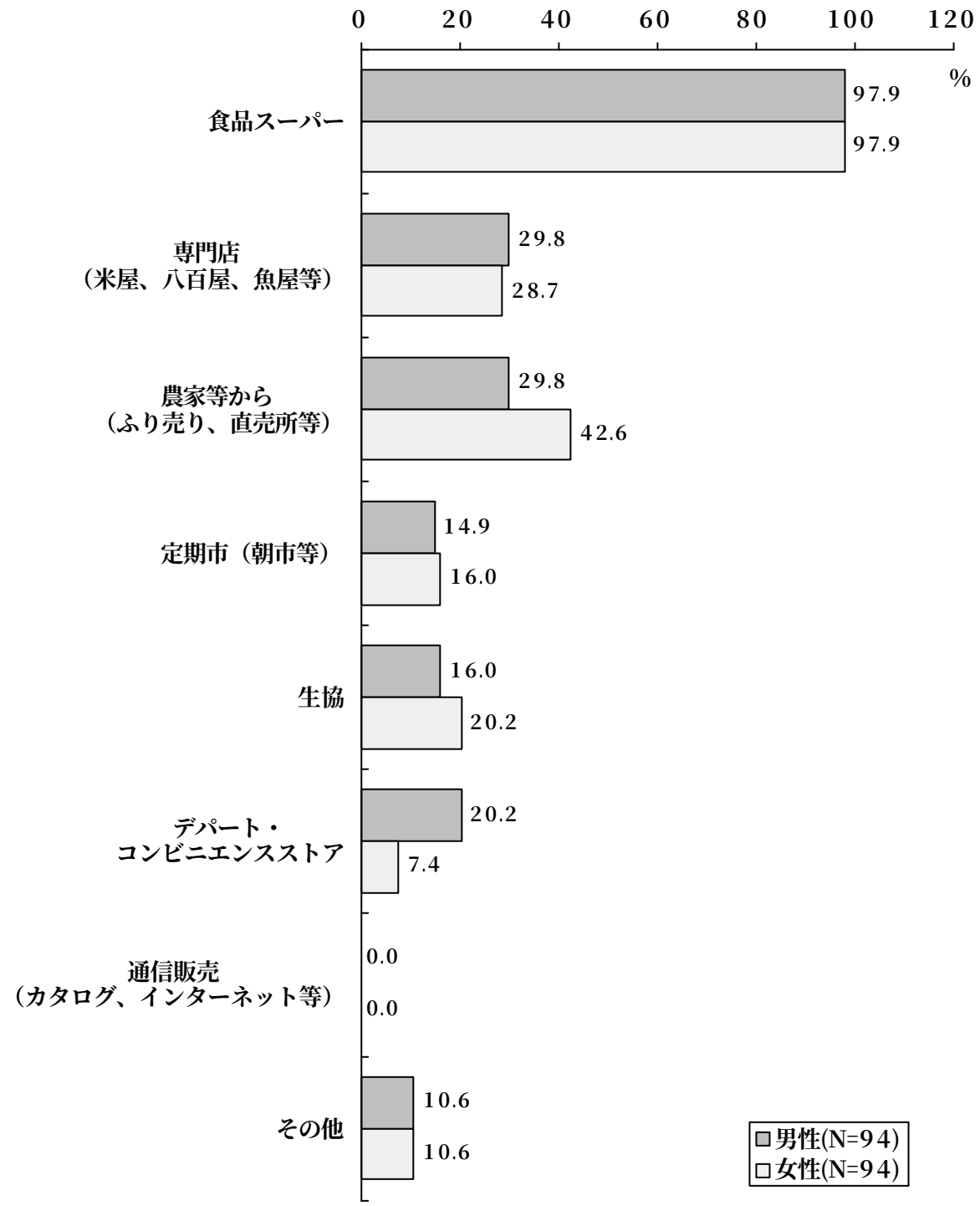
１	食品スーパー	１８４人	９７.９%
２	専門店（米屋、八百屋、魚屋等）	５５人	２９.３%
３	農家等から（ふり売り、直売所等）	６８人	３６.２%
４	定期市（朝市等）	２９人	１５.４%
５	生協	３４人	１８.１%
６	デパート・コンビニエンスストア	２６人	１３.８%
７	通信販売（カタログ、インターネット等）	０人	０.０%
８	その他	２０人	１０.６%



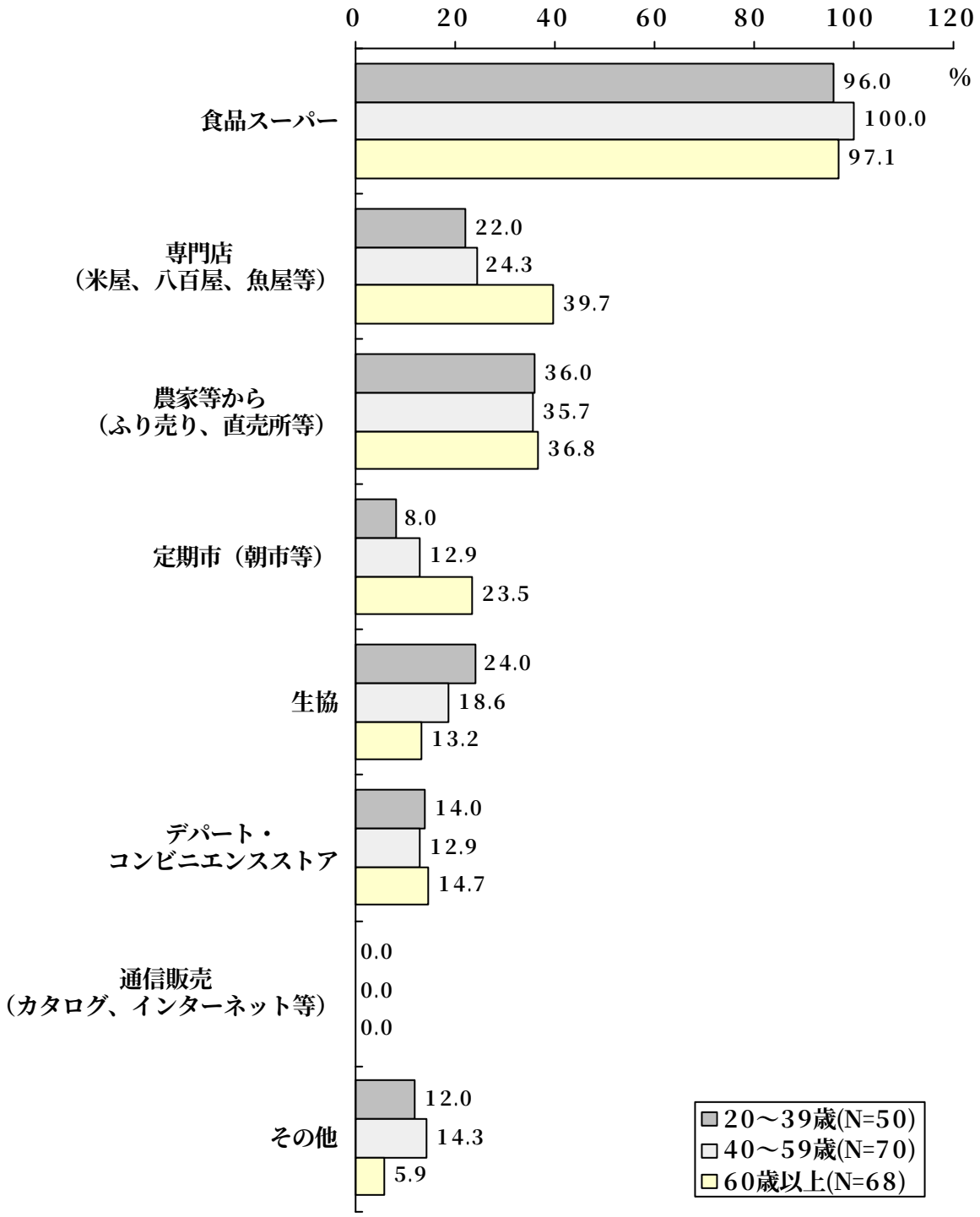
「食品スーパー」が９７.９%と最も高く、以下「農家等から（ふり売り、直売所等）」３６.２%、「専門店（米屋、八百屋、魚屋等）」２９.３%などの順となっている。

「その他」は「自家栽培（１６件）」「実家・親戚（３件）」など。

【性別】


0
20
40
60
80
100
120
%
食品スーパー
97.9
97.9
専門店
（米屋、八百屋、魚屋等）
29.8
28.7
農家等から
（ふり売り、直売所等）
29.8
42.6
定期市（朝市等）
14.9
16.0
生協
16.0
20.2
デパート・
コンビニエンスストア
20.2
7.4
通信販売
（カタログ、インターネット等）
0.0
0.0
その他
10.6
10.6
男性(N=94)
女性(N=94)

【年齢別】


0
20
40
60
80
100
120
%
食品スーパー
96.0
100.0
97.1
専門店
（米屋、八百屋、魚屋等）
22.0
24.3
39.7
農家等から
（ふり売り、直売所等）
36.0
35.7
36.8
定期市（朝市等）
8.0
12.9
23.5
生協
24.0
18.6
13.2
デパート・
コンビニエンスストア
14.0
12.9
14.7
通信販売
（カタログ、インターネット等）
0.0
0.0
0.0
その他
12.0
14.3
5.9
20～39歳(N=50)
40～59歳(N=70)
60歳以上(N=68)

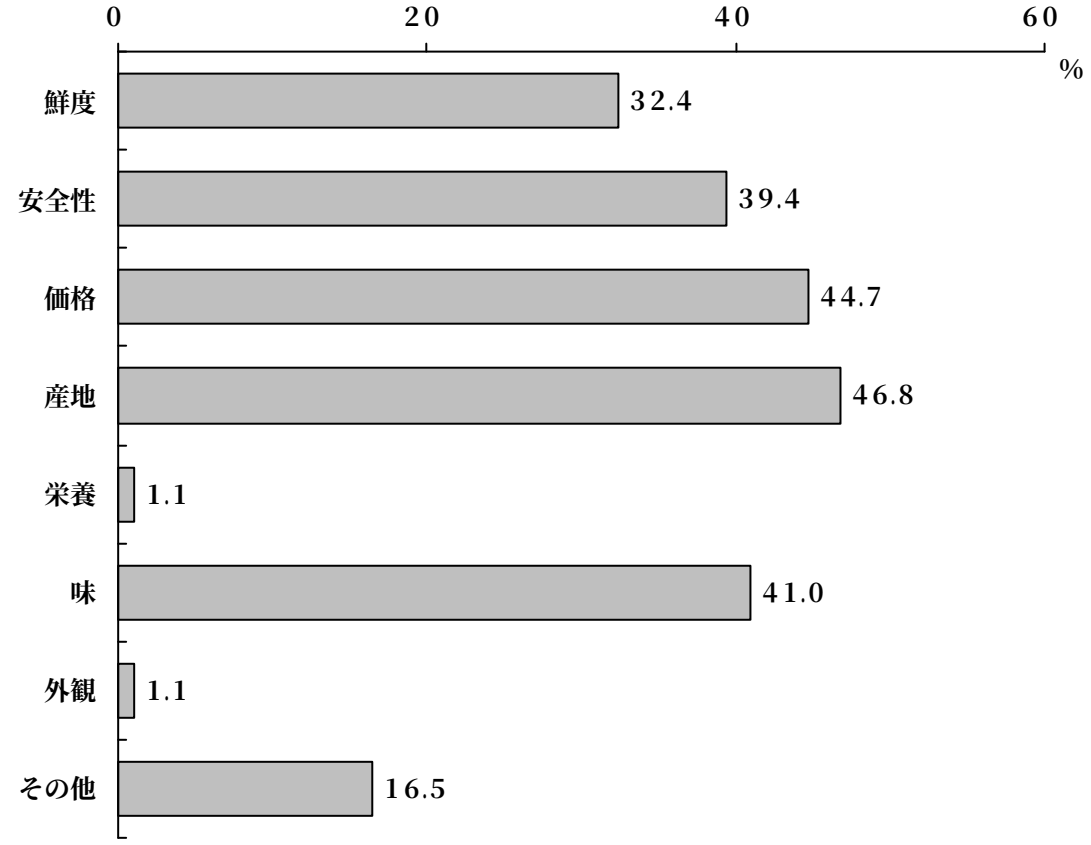
【購入時に重視する点】

問２　あなたのご家庭では、農林水産物を購入する際にどのような点を重視して購入しますか。（○はア～エごとにそれぞれ３つまで）

N＝１８８

ア　米

１	鮮度	61人	32.4%
２	安全性	74人	39.4%
３	価格	84人	44.7%
４	産地	88人	46.8%
５	栄養	2人	1.1%
６	味	77人	41.0%
７	外観	2人	1.1%
８	その他	31人	16.5%

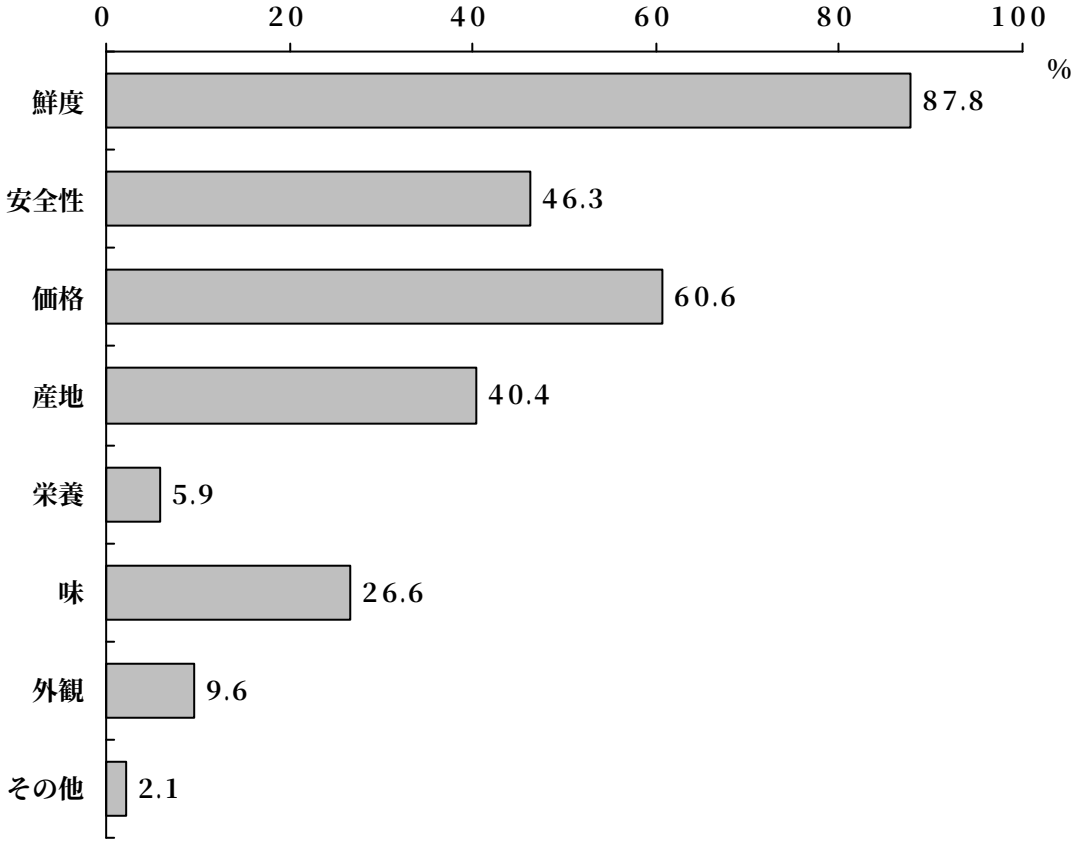


「産地」が 46.8%と最も高く、以下「価格」44.7%、「味」41.0%、「安全性」39.4%、「鮮度」32.4%などの順となっている。

「その他」は「(自家栽培のため）購入していない（２４件)」「(親戚・知人から譲ってもらうため）購入していない（６件)」「信用」。

イ　青果物

1	鮮度	165人	87.8%
2	安全性	87人	46.3%
3	価格	114人	60.6%
4	産地	76人	40.4%
5	栄養	11人	5.9%
6	味	50人	26.6%
7	外観	18人	9.6%
8	その他	4人	2.1%

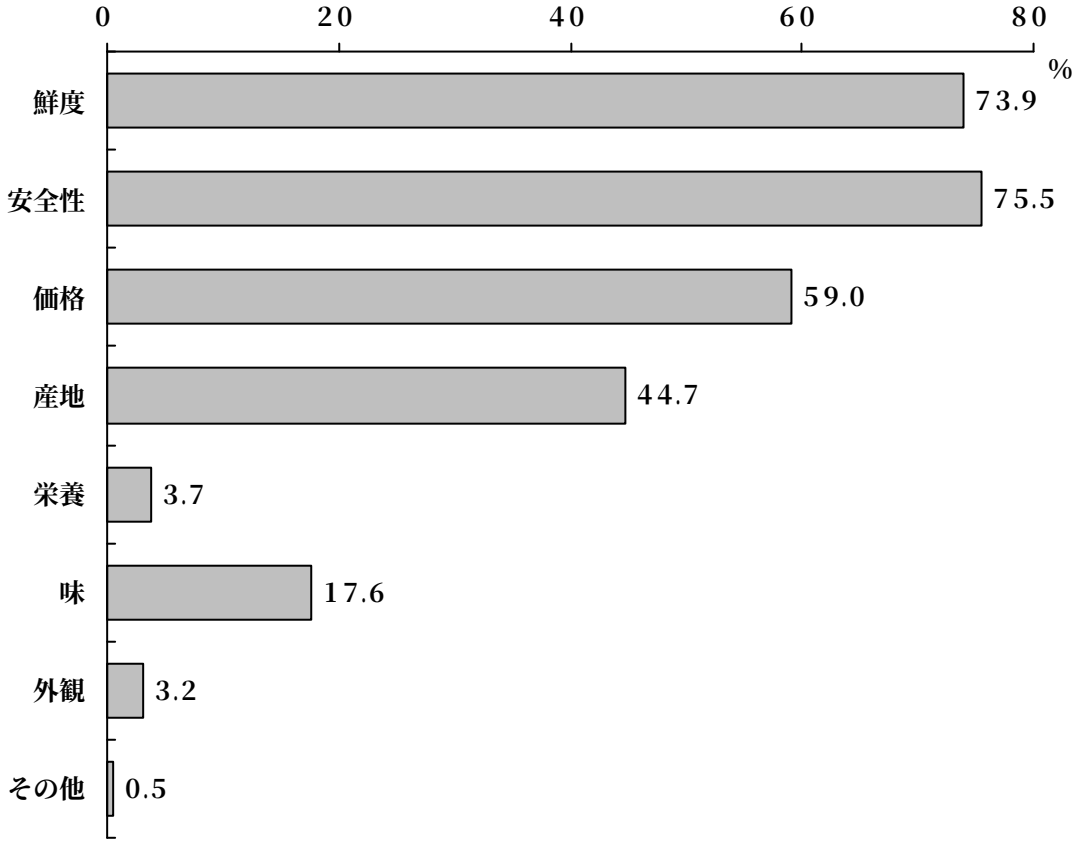


「鮮度」が87.8%と最も高く、以下「価格」60.6%、「安全性」46.3%、「産地」40.4%、「味」26.6%などの順となっている。

「その他」は「(自家栽培のため) 購入していない（4件)」。

ウ　畜産物

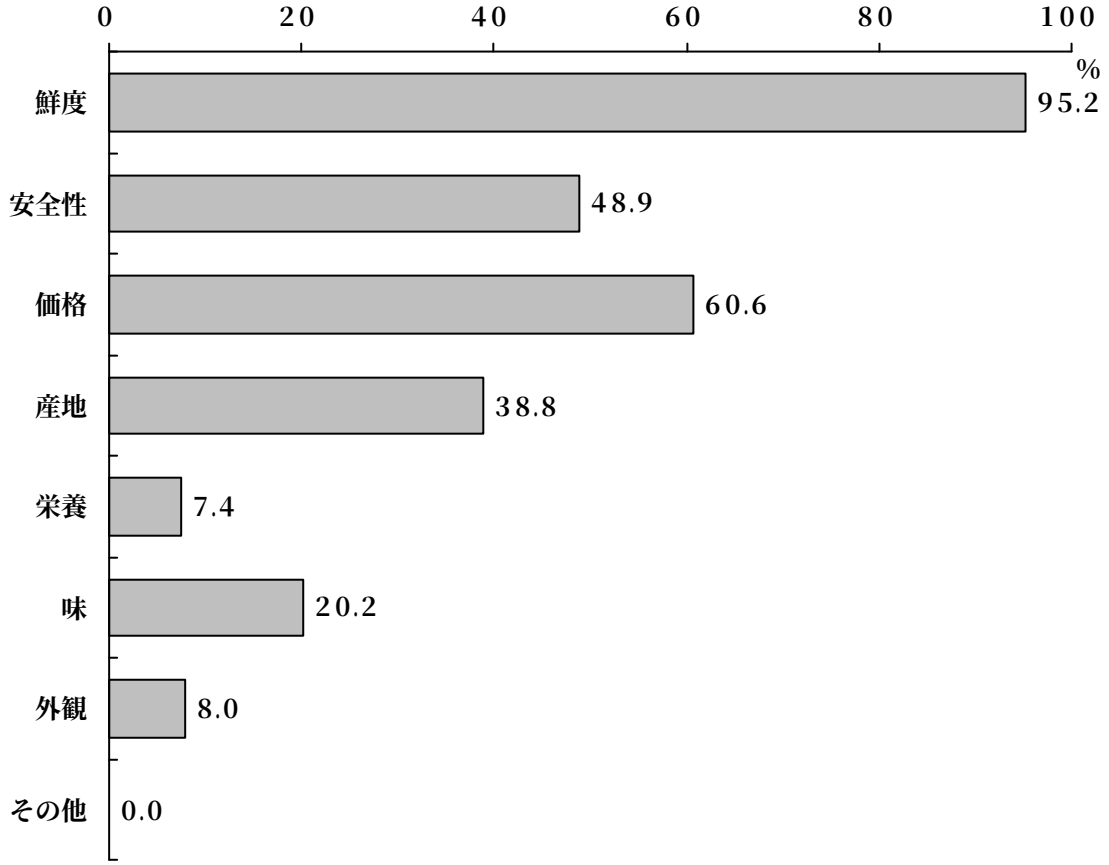
1	鮮度	139人	73.9%
2	安全性	142人	75.5%
3	価格	111人	59.0%
4	産地	84人	44.7%
5	栄養	7人	3.7%
6	味	33人	17.6%
7	外観	6人	3.2%
8	その他	1人	0.5%



「安全性」が75.5%と最も高く、以下「鮮度」73.9%、「価格」59.0%、「産地」44.7%、「味」17.6%などの順となっている。

エ　水産物

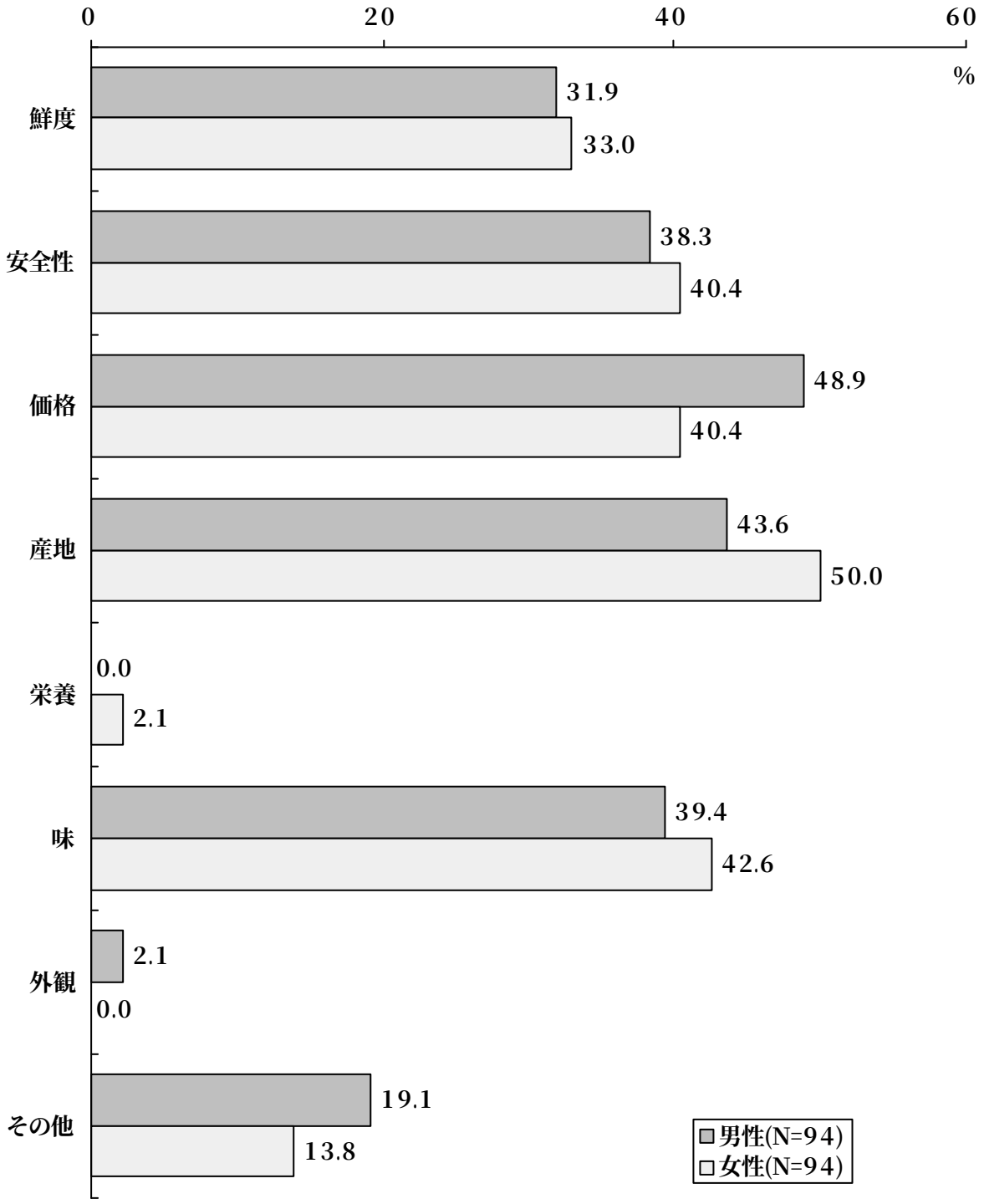
1	鮮度	179人	95.2%
2	安全性	92人	48.9%
3	価格	114人	60.6%
4	産地	73人	38.8%
5	栄養	14人	7.4%
6	味	38人	20.2%
7	外観	15人	8.0%
8	その他	0人	0.0%



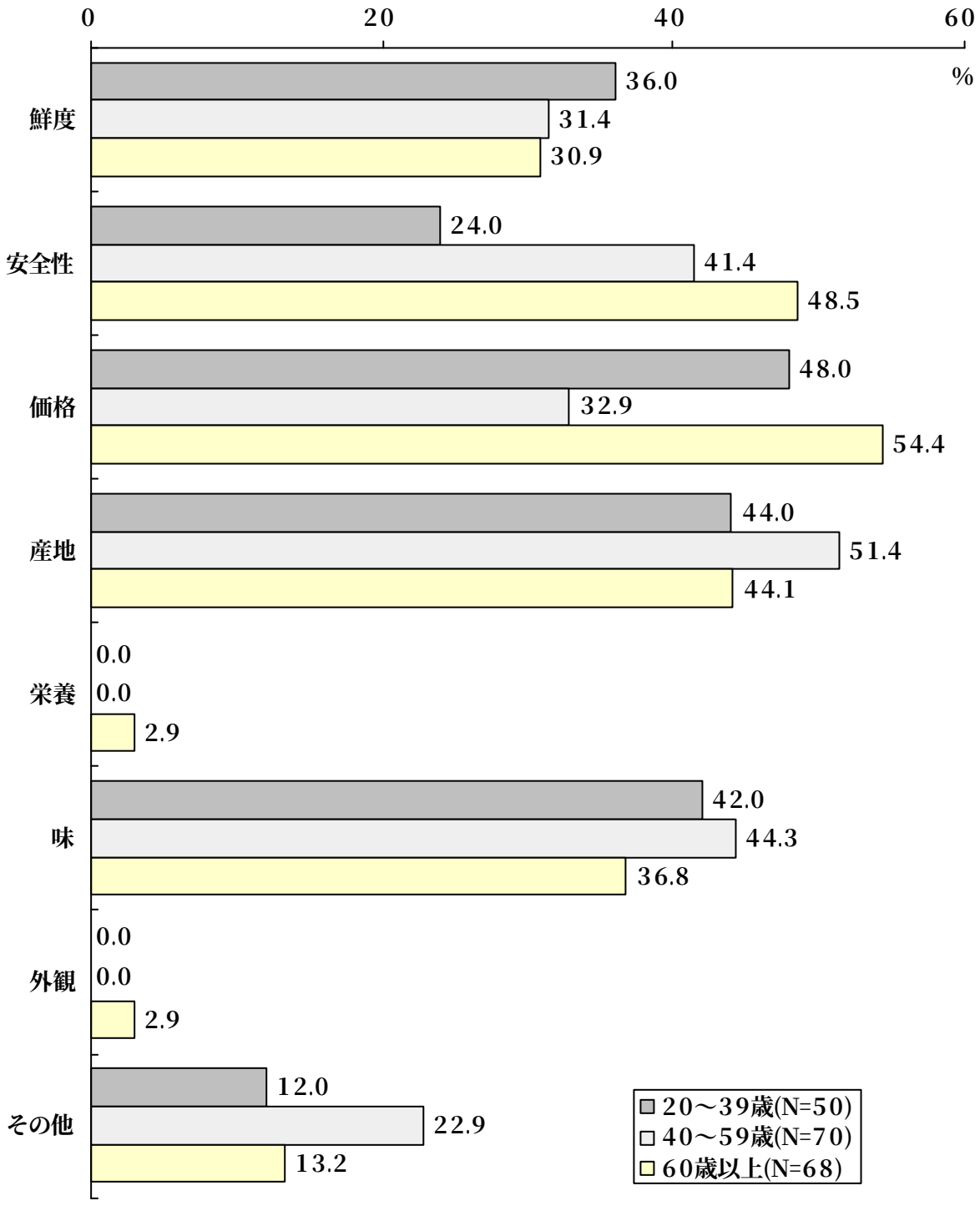
「鮮度」が95.2%と最も高く、以下「価格」60.6%、「安全性」48.9%、「産地」38.8%、「味」20.2%などの順となっている。

ア　米

【性別】

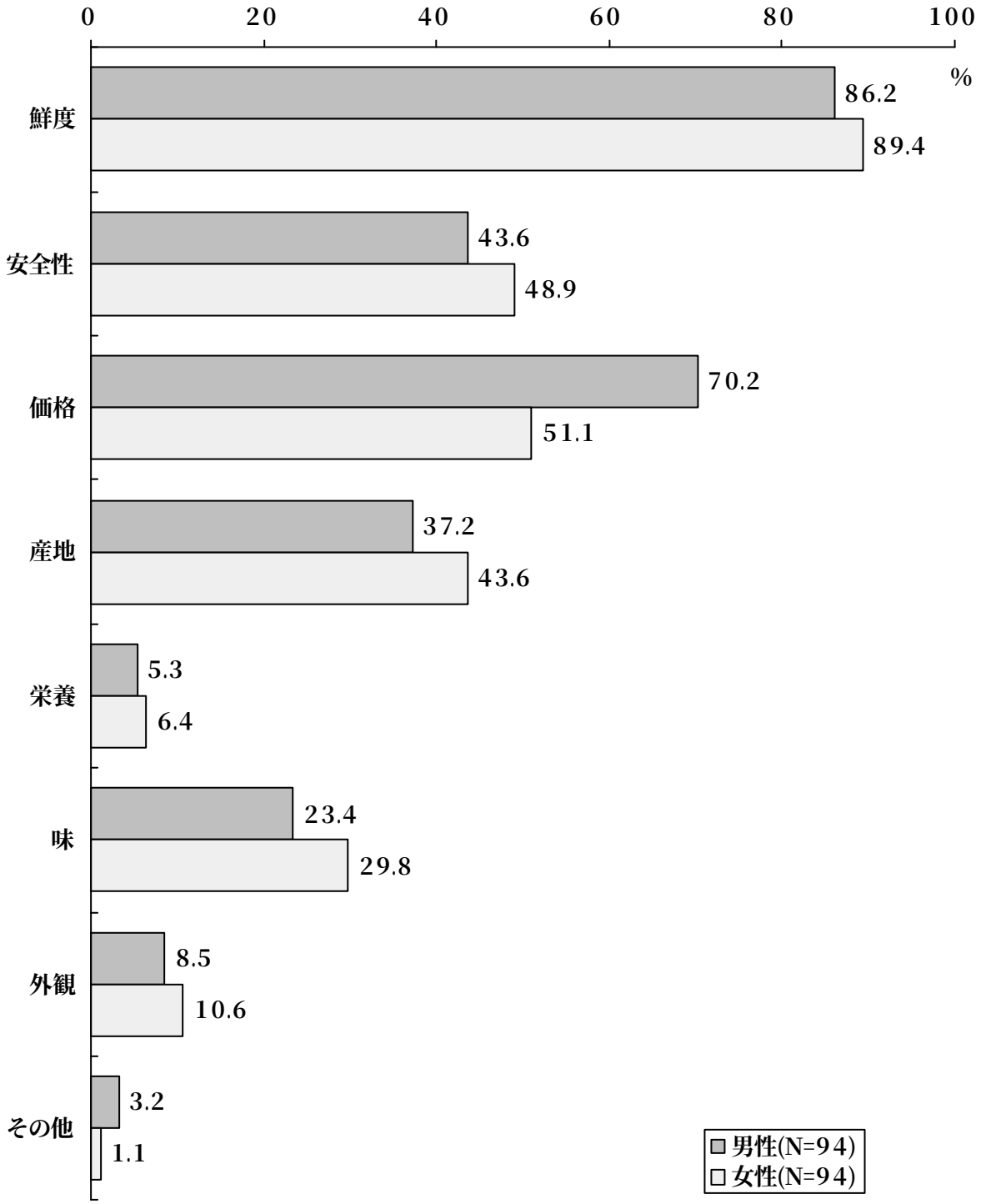

0
20
40
60
%
鮮度
31.9
33.0
安全性
38.3
40.4
価格
48.9
40.4
産地
43.6
50.0
栄養
0.0
2.1
味
39.4
42.6
外観
2.1
0.0
その他
19.1
13.8
男性(N=94)
女性(N=94)

【年齢別】

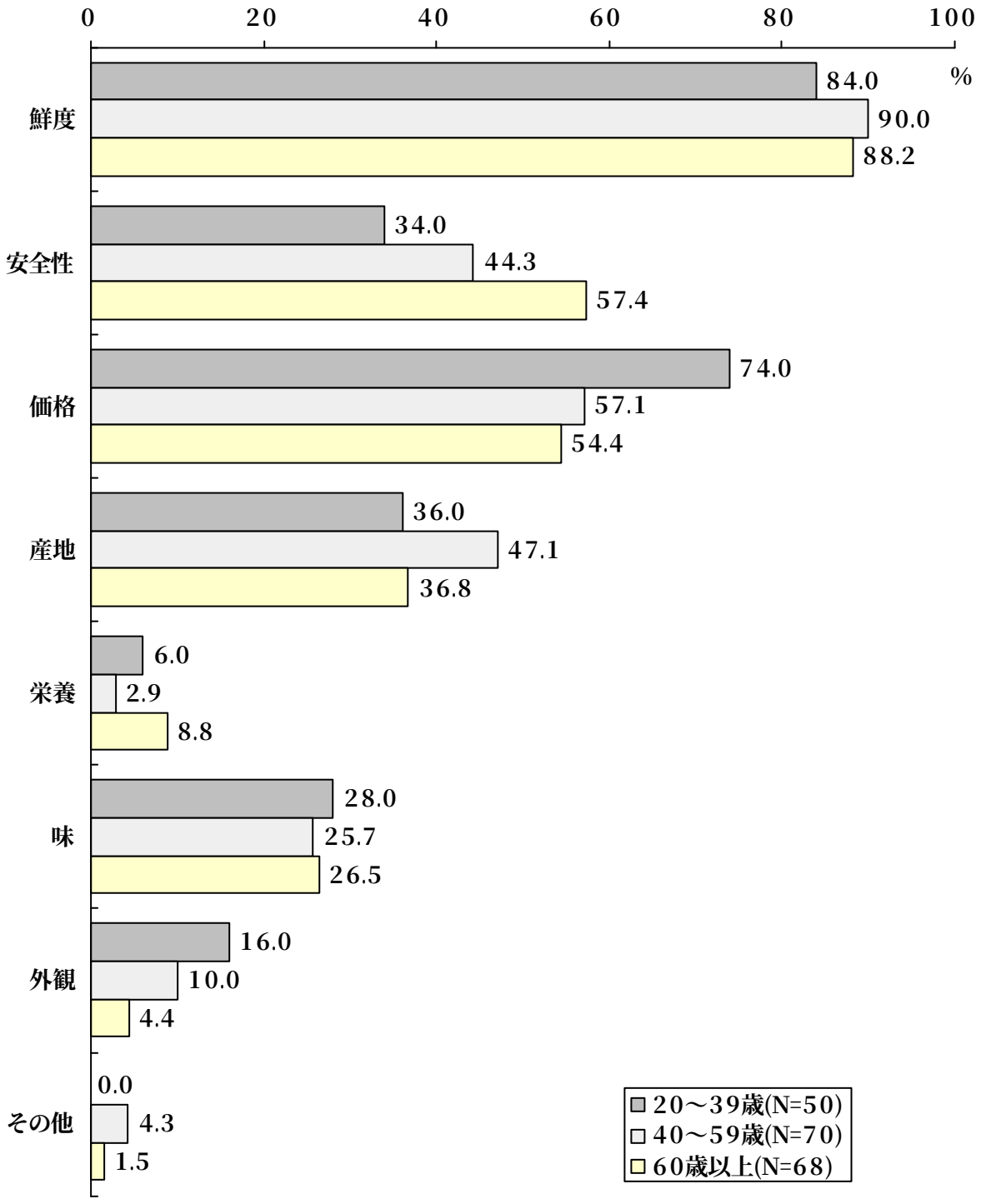

0
20
40
60
%
鮮度
36.0
31.4
30.9
安全性
24.0
41.4
48.5
価格
48.0
32.9
54.4
産地
44.0
51.4
44.1
栄養
0.0
0.0
2.9
味
42.0
44.3
36.8
外観
0.0
0.0
2.9
その他
12.0
22.9
13.2
20～39歳(N=50)
40～59歳(N=70)
60歳以上(N=68)

イ　青果物

【性別】

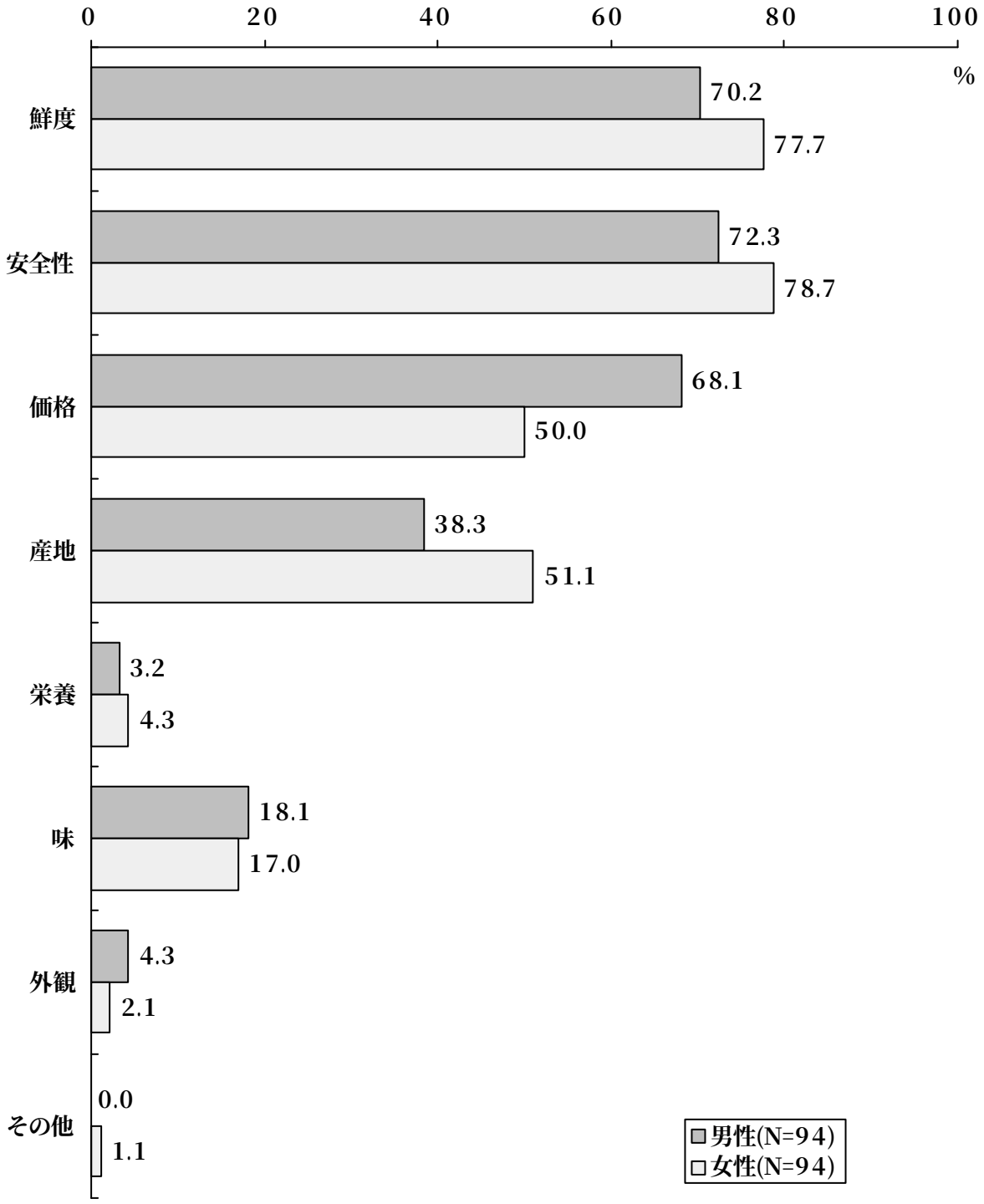

0
20
40
60
80
100
%
鮮度
86.2
89.4
安全性
43.6
48.9
価格
70.2
51.1
産地
37.2
43.6
栄養
5.3
6.4
味
23.4
29.8
外観
8.5
10.6
その他
3.2
1.1
男性(N=94)
女性(N=94)

【年齢別】

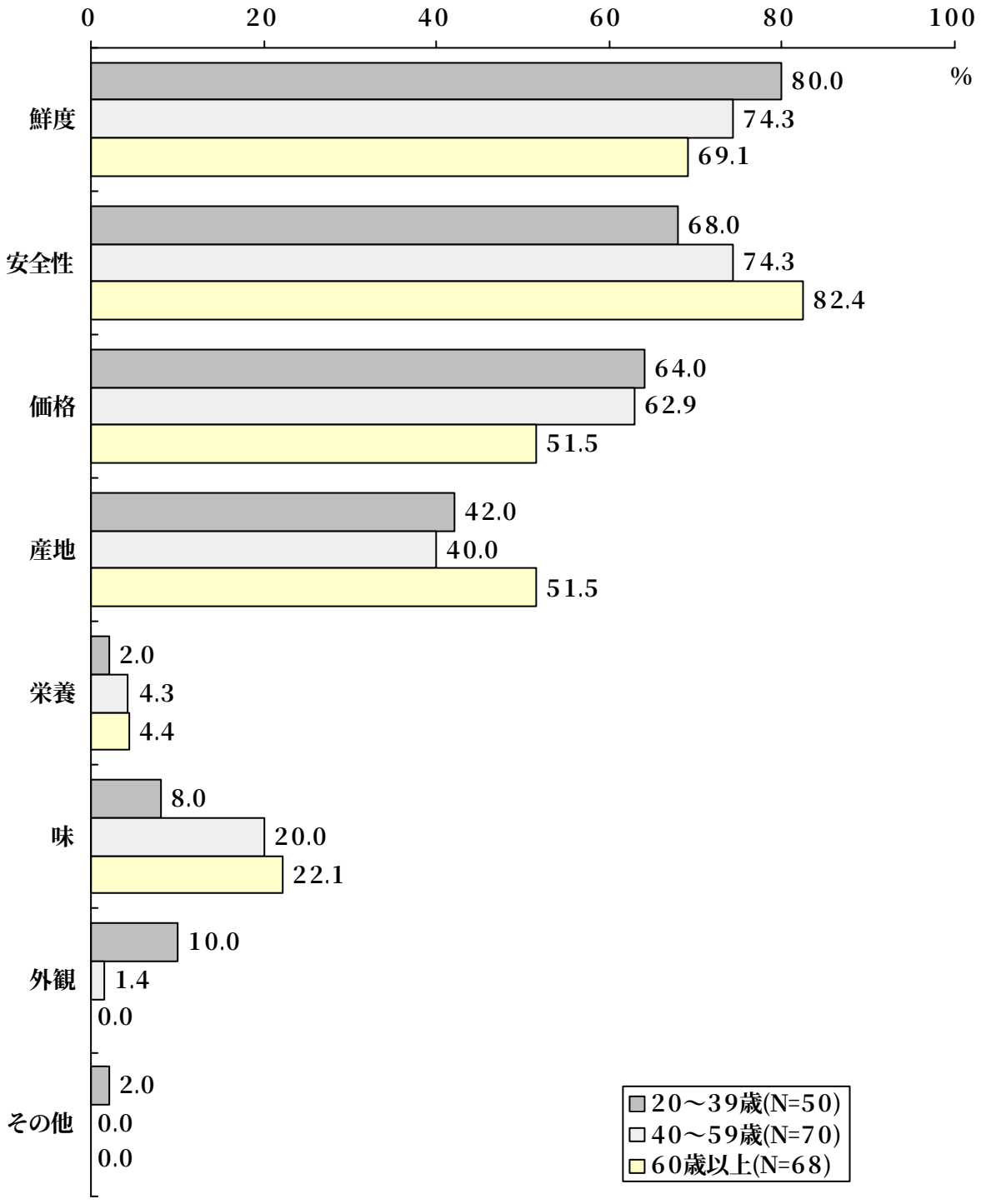

0
20
40
60
80
100
%
鮮度
84.0
90.0
88.2
安全性
34.0
44.3
57.4
価格
74.0
57.1
54.4
産地
36.0
47.1
36.8
栄養
6.0
2.9
8.8
味
28.0
25.7
26.5
外観
16.0
10.0
4.4
その他
0.0
4.3
1.5
20～39歳(N=50)
40～59歳(N=70)
60歳以上(N=68)

ウ　畜産物

【性別】

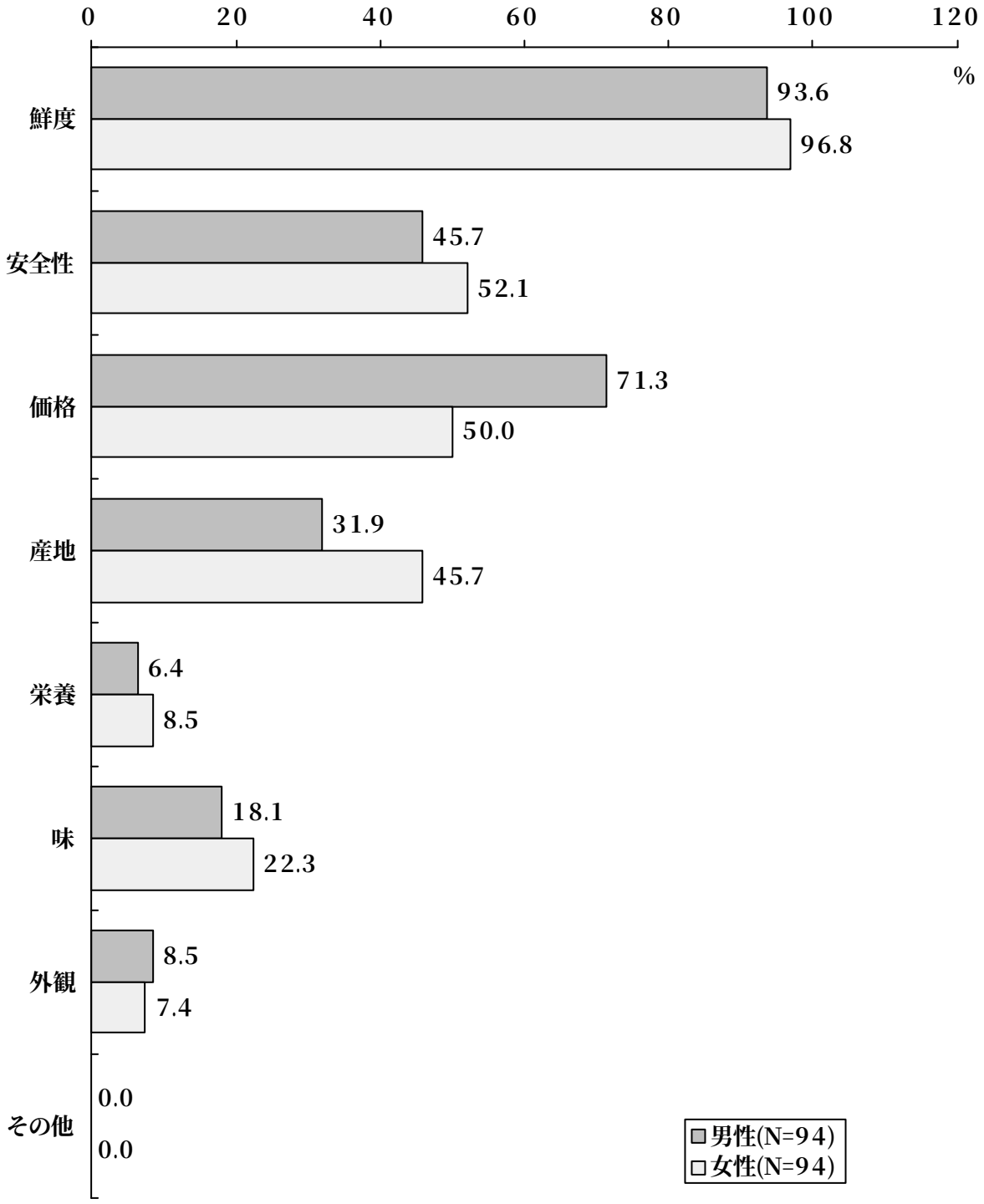

0
20
40
60
80
100
%
鮮度
70.2
77.7
安全性
72.3
78.7
価格
68.1
50.0
産地
38.3
51.1
栄養
3.2
4.3
味
18.1
17.0
外観
4.3
2.1
その他
0.0
1.1
男性(N=94)
女性(N=94)

【年齢別】

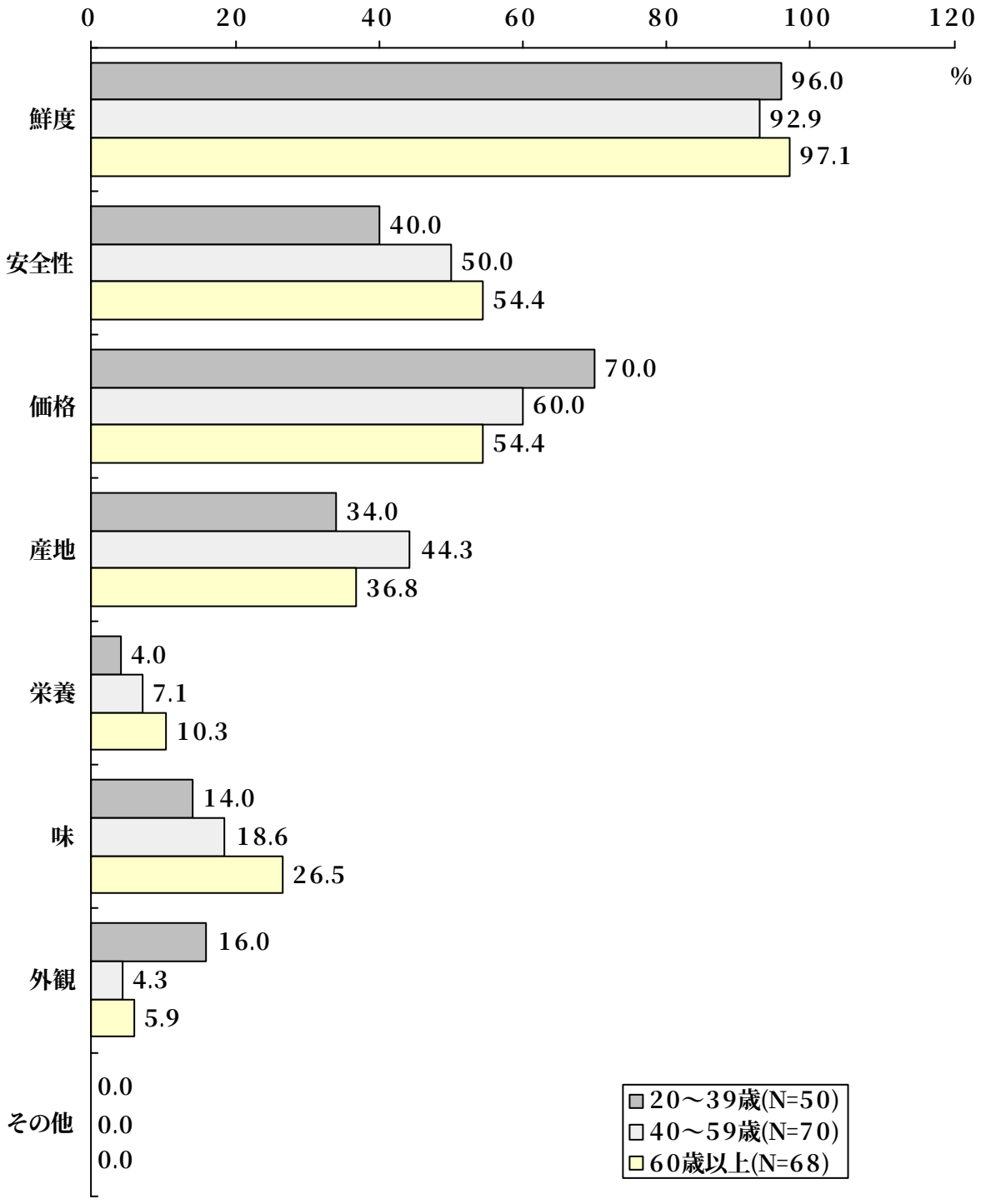

0
20
40
60
80
100
%
鮮度
80.0
74.3
69.1
安全性
68.0
74.3
82.4
価格
64.0
62.9
51.5
産地
42.0
40.0
51.5
栄養
2.0
4.3
4.4
味
8.0
20.0
22.1
外観
10.0
1.4
0.0
その他
2.0
0.0
0.0
20～39歳(N=50)
40～59歳(N=70)
60歳以上(N=68)

エ　水産物

【性別】


0
20
40
60
80
100
120
%
鮮度
93.6
96.8
安全性
45.7
52.1
価格
71.3
50.0
産地
31.9
45.7
栄養
6.4
8.5
味
18.1
22.3
外観
8.5
7.4
その他
0.0
0.0
男性(N=94)
女性(N=94)

【年齢別】

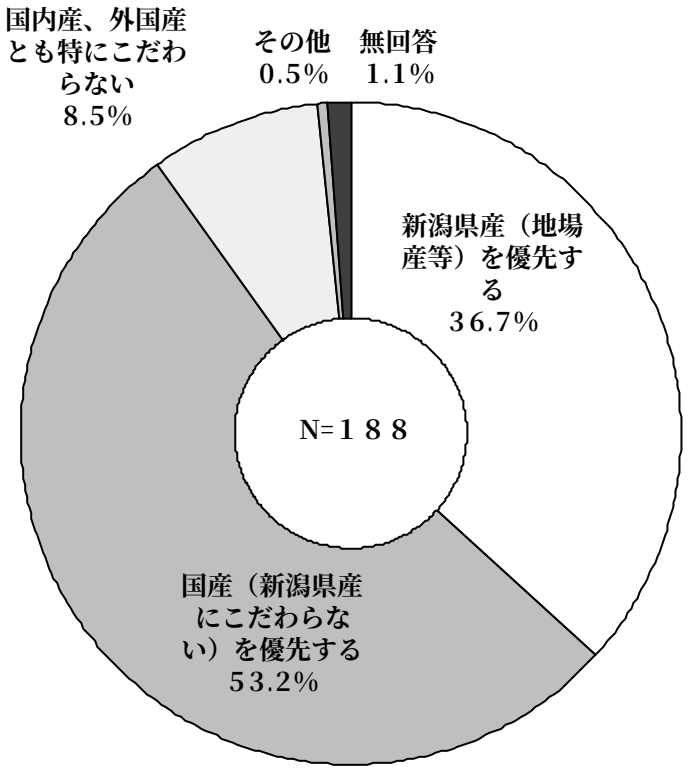

0
20
40
60
80
100
120
%
鮮度
96.0
92.9
97.1
安全性
40.0
50.0
54.4
価格
70.0
60.0
54.4
産地
34.0
44.3
36.8
栄養
4.0
7.1
10.3
味
14.0
18.6
26.5
外観
16.0
4.3
5.9
その他
0.0
0.0
0.0
20～39歳(N=50)
40～59歳(N=70)
60歳以上(N=68)

【購入時に優先する産地】

問３　あなたのご家庭では、原産地（国名、都道府県名）が表示されている農林水産物を購入する際、どの産地を優先して購入しますか。（○は１つだけ）

N＝１８８

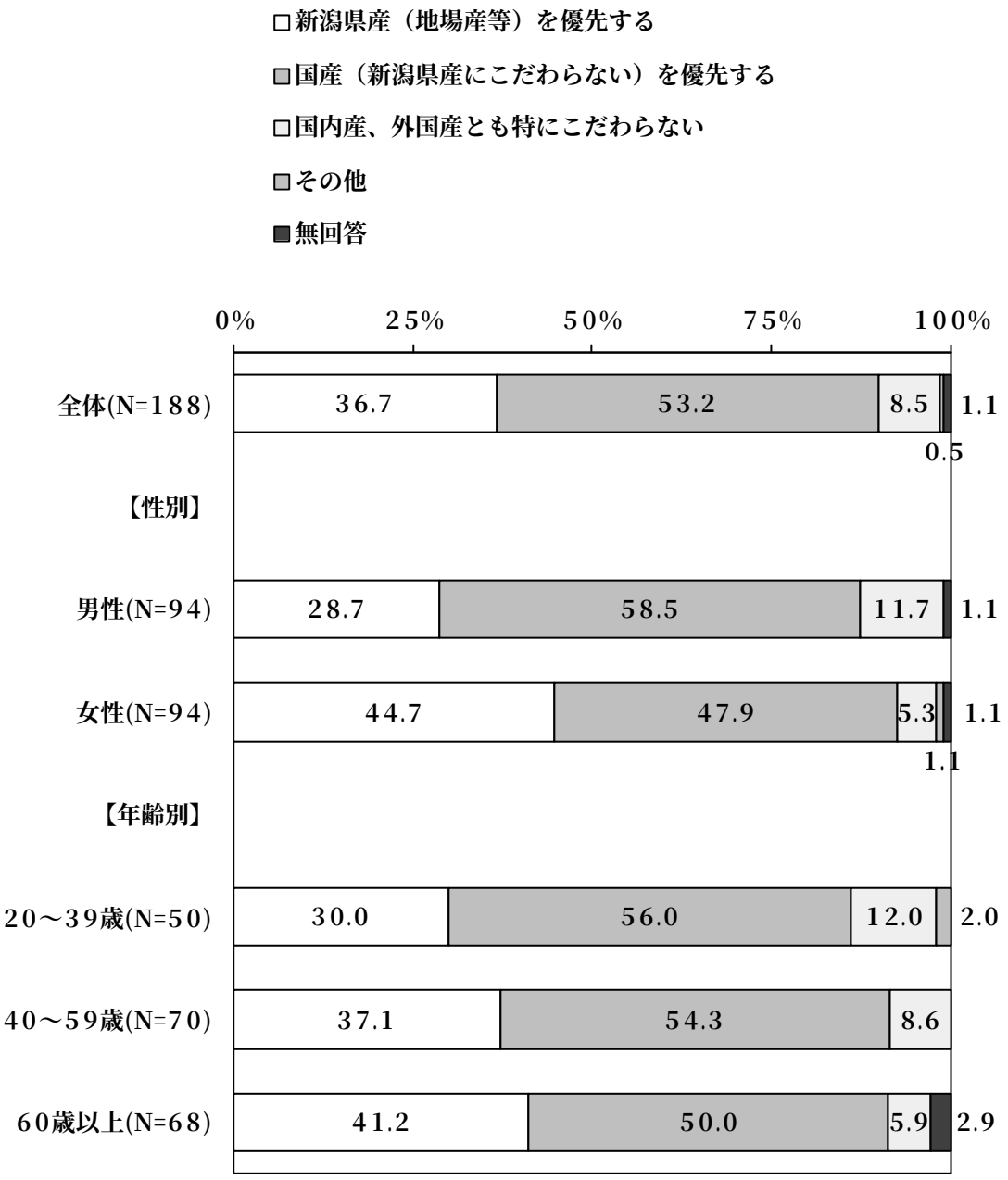
１	新潟県産（地場産等）を優先する	６９人	３６.７%
２	国産（新潟県産にこだわらない）を優先する	１００人	５３.２%
３	国内産、外国産とも特にこだわらない	１６人	８.５%
４	その他	１人	０.５%
	無回答	２人	１.１%



「国産（新潟県産にこだわらない）を優先する」が５３.２%と最も高く、以下「新潟県産（地場産等）を優先する」３６.７%、「国内産、外国産とも特にこだわらない」８.５%などの順となっている。

「その他」は「季節による」。

【性別・年齢別】


□新潟県産（地場産等）を優先する
□国産（新潟県産にこだわらない）を優先する
□国内産、外国産とも特にこだわらない
□その他
■無回答
0%
25%
50%
75%
100%
全体(N=188)
36.7
53.2
8.5
1.1
0.5
【性別】
男性(N=94)
28.7
58.5
11.7
1.1
女性(N=94)
44.7
47.9
5.3
1.1
1.1
【年齢別】
20～39歳(N=50)
30.0
56.0
12.0
2.0
40～59歳(N=70)
37.1
54.3
8.6
60歳以上(N=68)
41.2
50.0
5.9
2.9

【県内産（地場産を含む）農林水産物の購入意識】

問４　あなたは、農林水産物を購入するとき、県内産（地場産を含む）を優先して購入しますか。それとも特にこだわらないですか。また、その理由について、下の表から１つだけ選び、○をつけてください。（○はそれぞれ１つずつ）

N＝１８８

ア）米

1	県内産を優先して購入	146人	77.7%
2	特にこだわらない	35人	18.6%
	無回答	7人	3.7%

イ）野菜

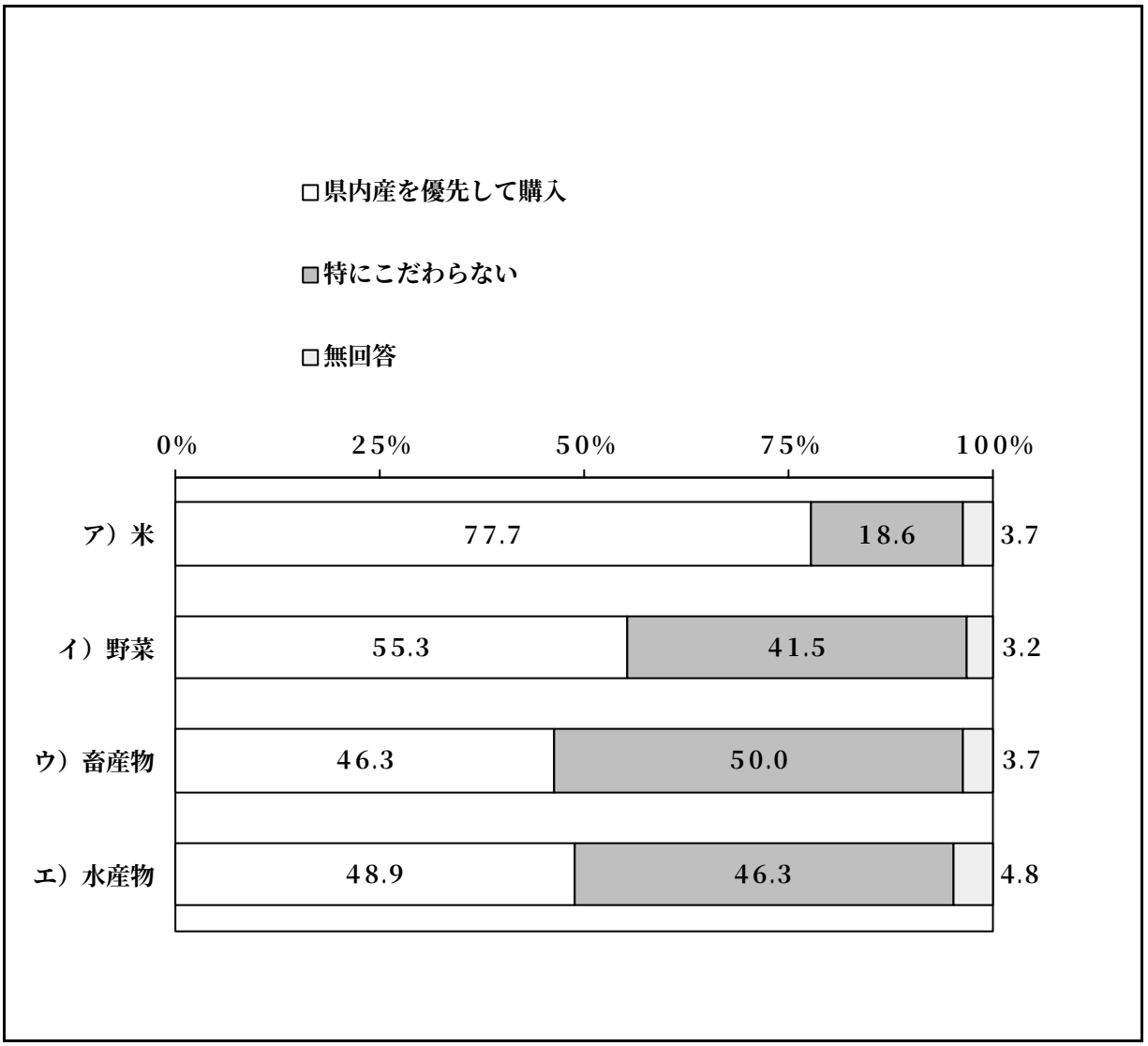
1	県内産を優先して購入	104人	55.3%
2	特にこだわらない	78人	41.5%
	無回答	6人	3.2%

ウ）畜産物

1	県内産を優先して購入	87人	46.3%
2	特にこだわらない	94人	50.0%
	無回答	7人	3.7%

エ）水産物

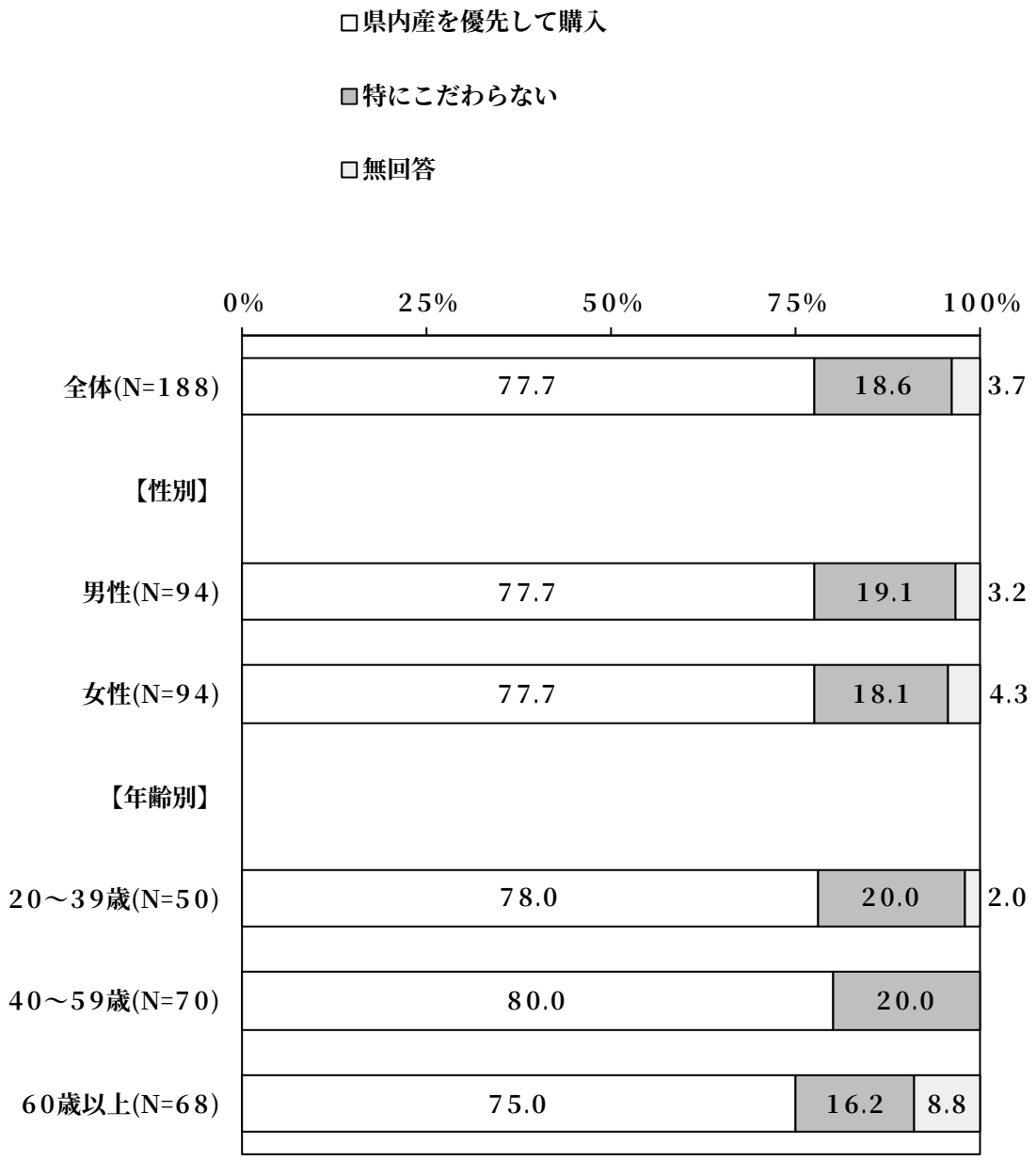
1	県内産を優先して購入	92人	48.9%
2	特にこだわらない	87人	46.3%
	無回答	9人	4.8%



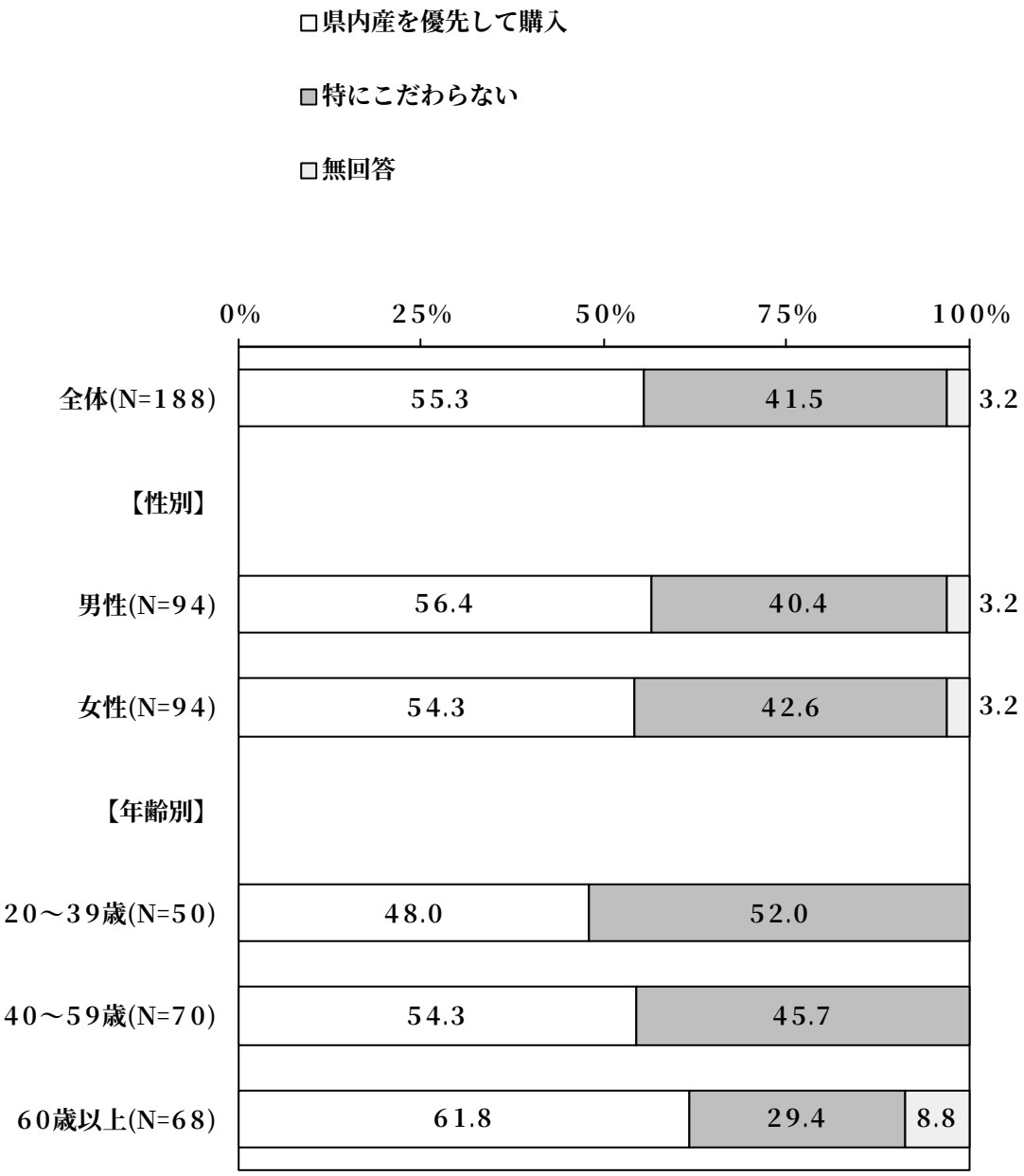
「県内産を優先して購入」という回答について、最も高かったのは「米」で77.7%、以下「野菜」55.3%、「水産物」48.9%、「畜産物」46.3%の順となっている。

【性別・年齢別】

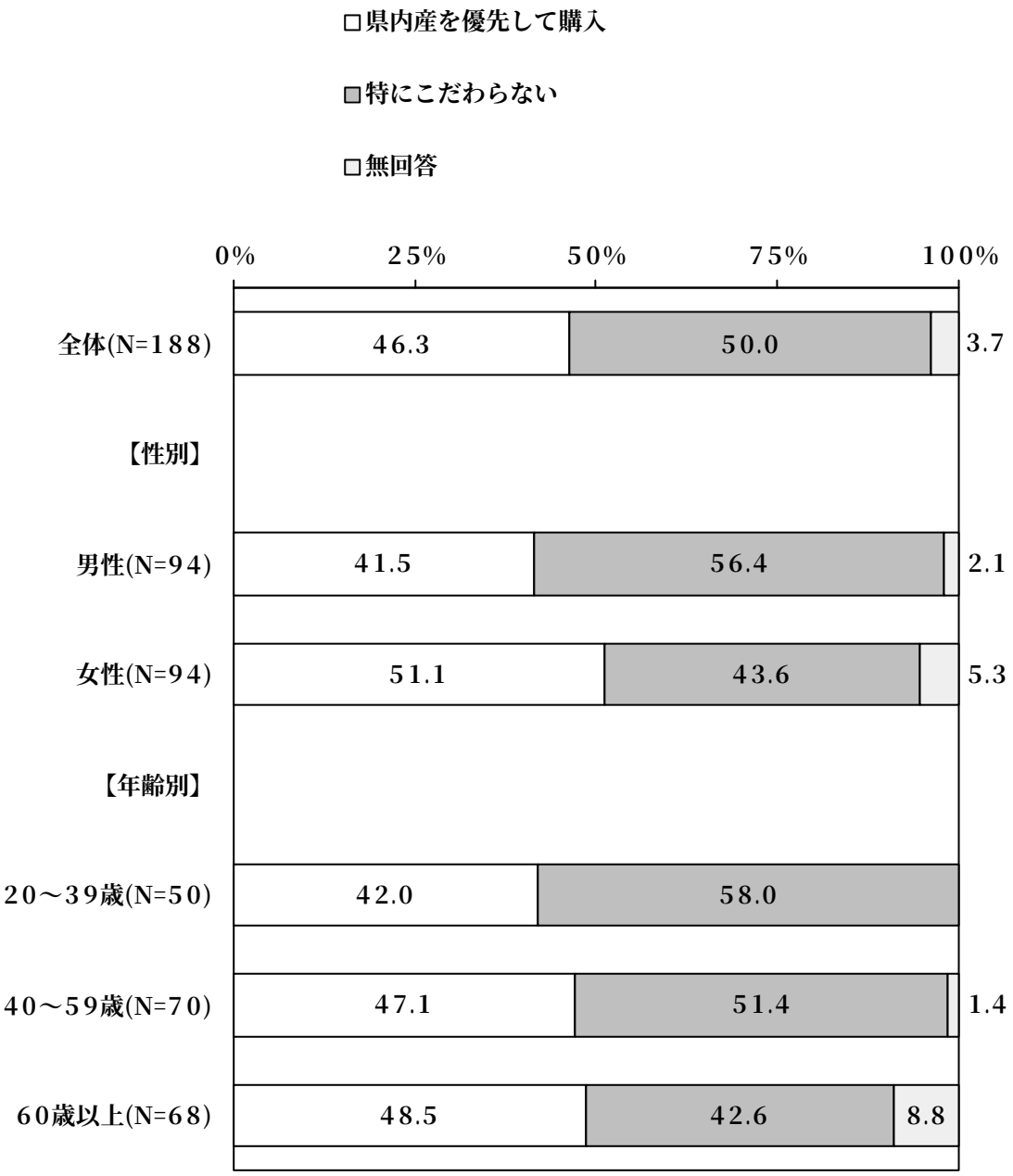
ア）米


□県内産を優先して購入
■特にこだわらない
□無回答
0%
25%
50%
75%
100%
全体(N=188)
77.7
18.6
3.7
【性別】
男性(N=94)
77.7
19.1
3.2
女性(N=94)
77.7
18.1
4.3
【年齢別】
20～39歳(N=50)
78.0
20.0
2.0
40～59歳(N=70)
80.0
20.0
60歳以上(N=68)
75.0
16.2
8.8

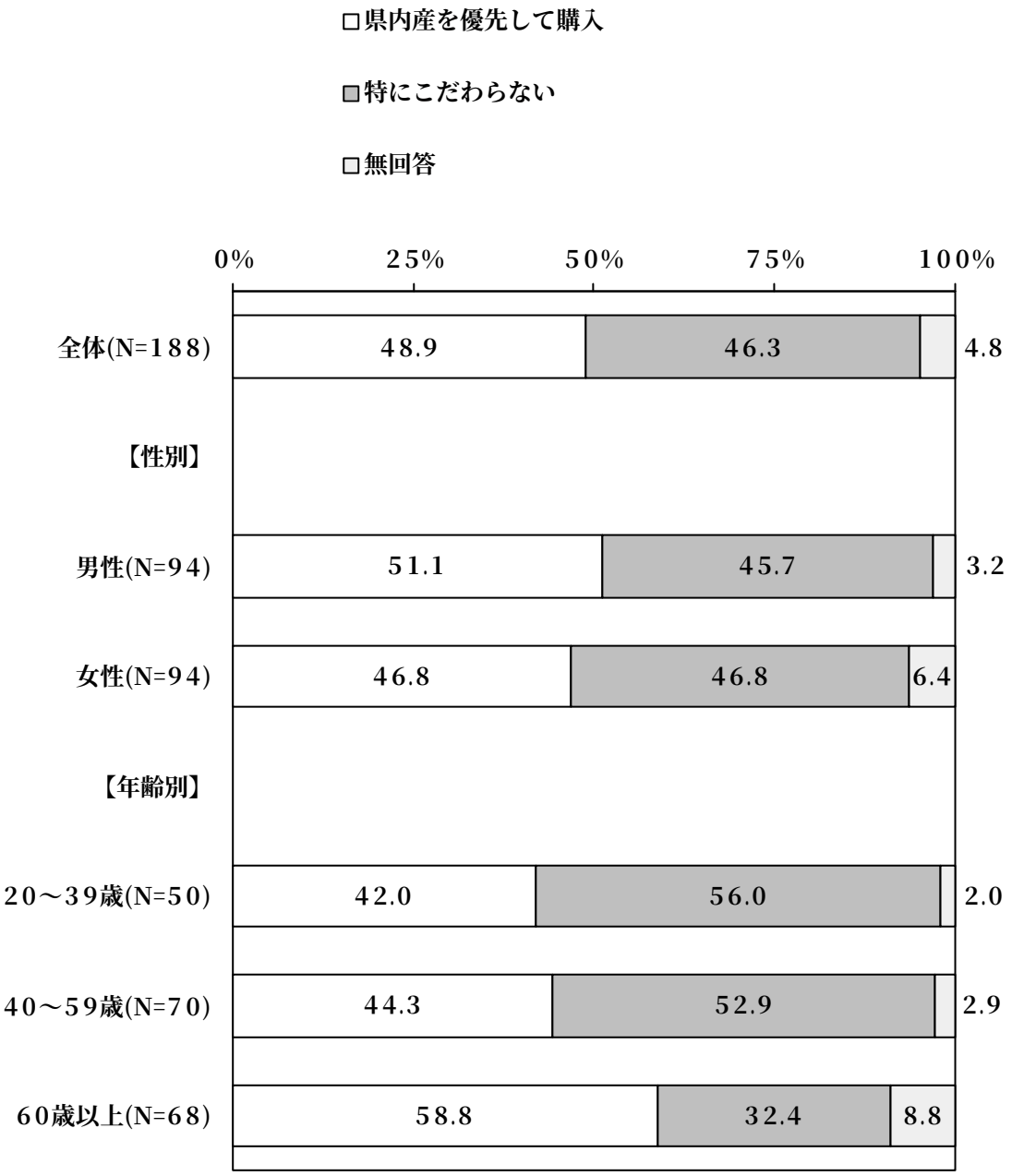
イ）野菜


□県内産を優先して購入
■特にこだわらない
□無回答
0%
25%
50%
75%
100%
全体(N=188)
55.3
41.5
3.2
【性別】
男性(N=94)
56.4
40.4
3.2
女性(N=94)
54.3
42.6
3.2
【年齢別】
20～39歳(N=50)
48.0
52.0
40～59歳(N=70)
54.3
45.7
60歳以上(N=68)
61.8
29.4
8.8

ウ）畜産物


□県内産を優先して購入
■特にこだわらない
□無回答
0%
25%
50%
75%
100%
全体(N=188)
46.3
50.0
3.7
【性別】
男性(N=94)
41.5
56.4
2.1
女性(N=94)
51.1
43.6
5.3
【年齢別】
20～39歳(N=50)
42.0
58.0
40～59歳(N=70)
47.1
51.4
1.4
60歳以上(N=68)
48.5
42.6
8.8

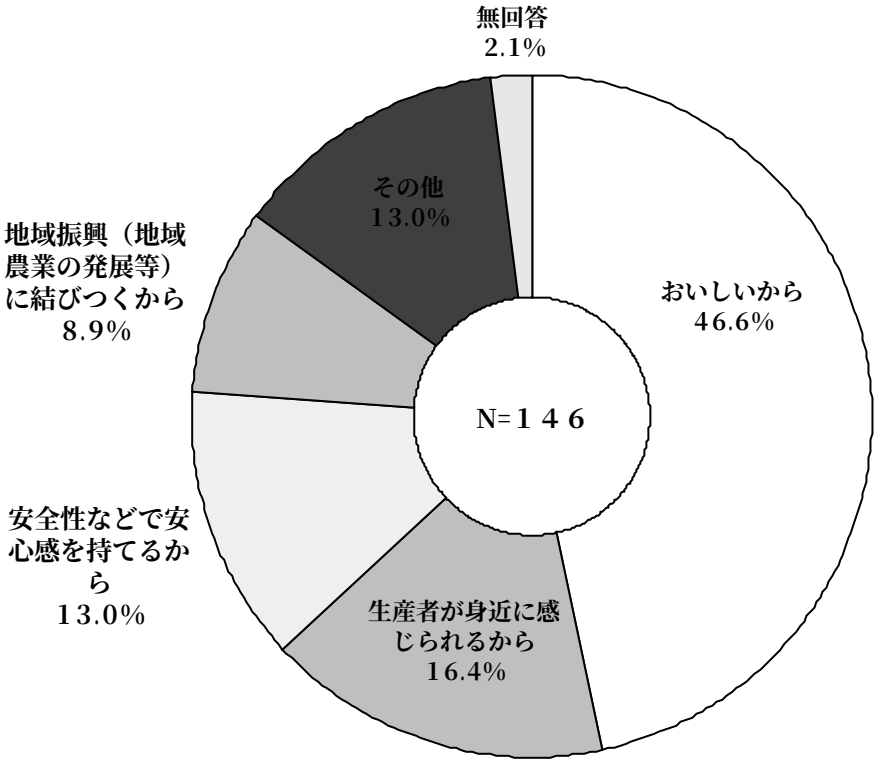
エ）水産物


□県内産を優先して購入
■特にこだわらない
□無回答
0%
25%
50%
75%
100%
全体(N=188)
48.9
46.3
4.8
【性別】
男性(N=94)
51.1
45.7
3.2
女性(N=94)
46.8
46.8
6.4
【年齢別】
20～39歳(N=50)
42.0
56.0
2.0
40～59歳(N=70)
44.3
52.9
2.9
60歳以上(N=68)
58.8
32.4
8.8

ア）米

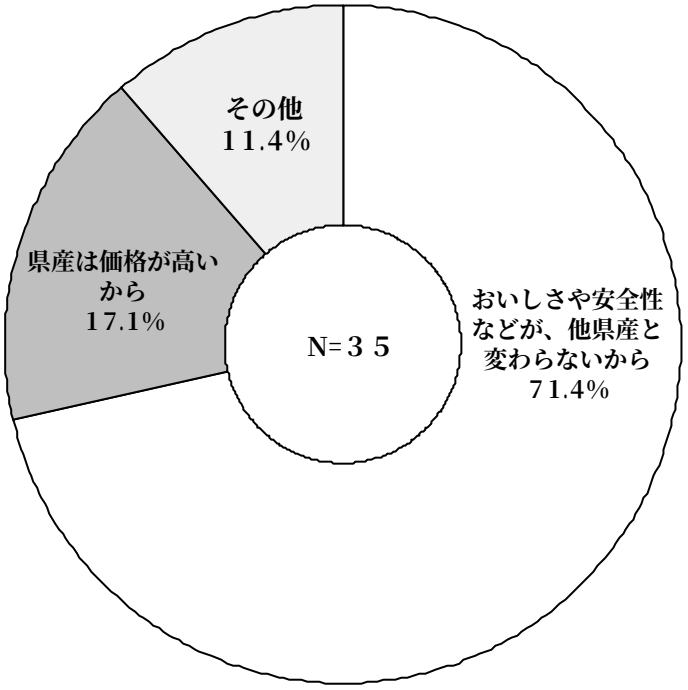
〈「1　県内産を優先して購入」を選んだ理由〉　　N=１４６

1	おいしいから	68人	46.6%
2	生産者が身近に感じられるから	24人	16.4%
3	安全性などで安心感を持てるから	19人	13.0%
4	地域振興（地域農業の発展等）に結びつくから	13人	8.9%
5	その他	19人	13.0%
	無回答	3人	2.1%



〈「２　特にこだわらない」を選んだ理由〉　　N＝３５

１　おいしさや安全性などが、他県産と変わらないから	２５人	７１.４%
２　県産は価格が高いから	６人	１７.１%
３　その他	４人	１１.４%



〈「１　県内産を優先して購入」を選んだ理由〉

「おいしいから」が 46.6%と最も高く、以下「生産者が身近に感じられるから」16.4%、「安全性などで安心感を持てるから」13.0%などの順となっている。

「その他」は「自家栽培しているから」「親戚・知人から譲ってもらうから（４件）」。

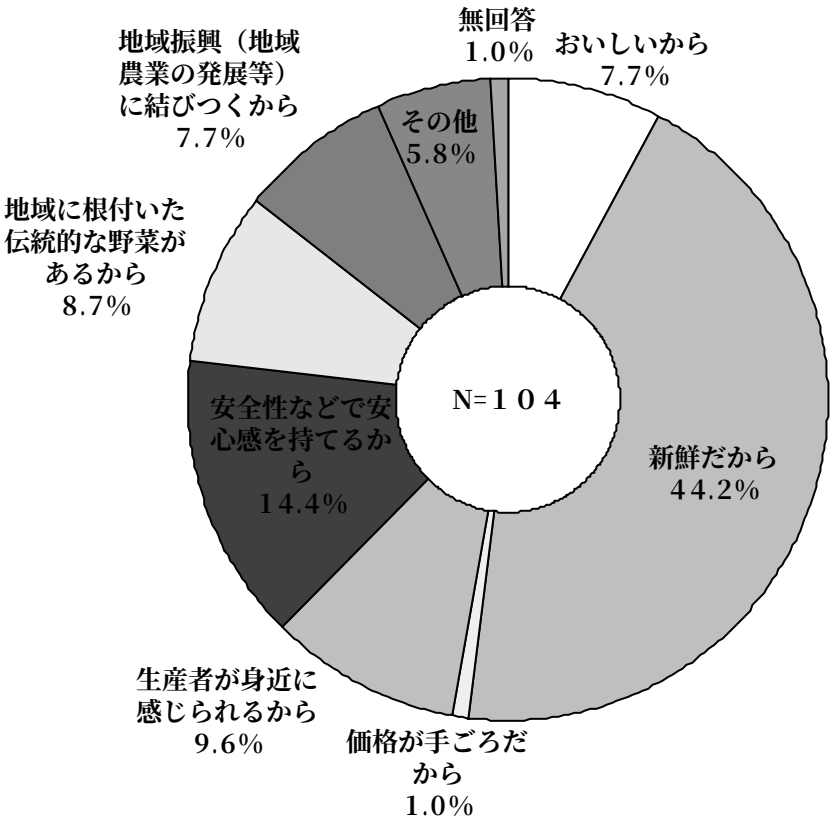
〈「２　特にこだわらない」を選んだ理由〉

「おいしさや安全性などが、他県産と変わらないから」が 71.4%と最も高く、以下「県産は価格が高いから」17.1%などの順となっている。

イ）野菜

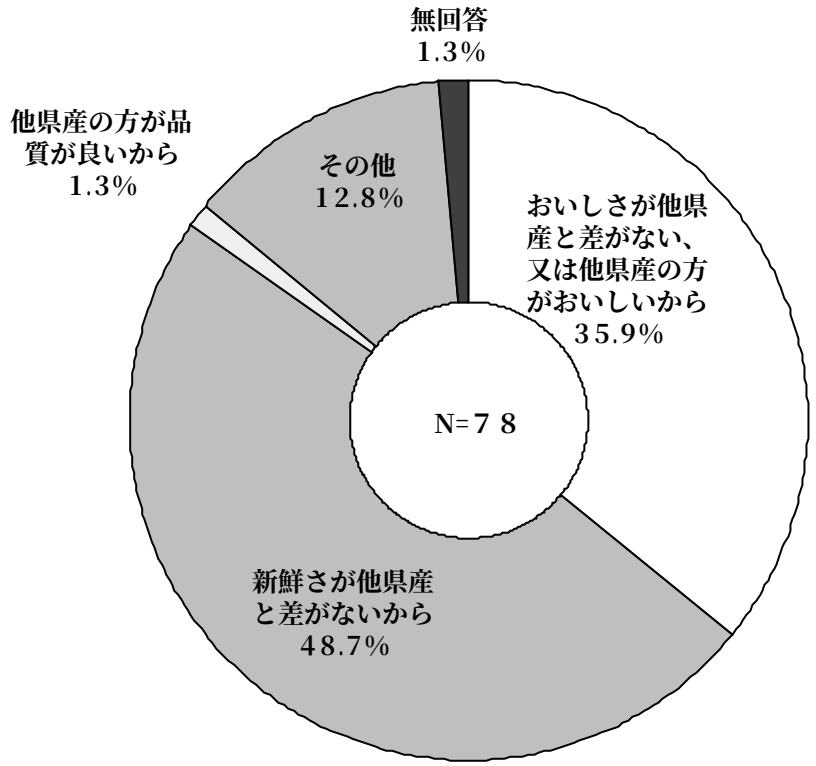
〈「１　県内産を優先して購入」を選んだ理由〉　　N＝１０４

１	おいしいから	８人	7.7%
２	新鮮だから	46人	44.2%
３	価格が手ごろだから	１人	1.0%
４	生産者が身近に感じられるから	10人	9.6%
５	安全性などで安心感を持てるから	15人	14.4%
６	地域に根付いた伝統的な野菜があるから	９人	8.7%
７	地域振興（地域農業の発展等）に結びつくから	８人	7.7%
８	その他	６人	5.8%
	無回答	１人	1.0%



〈「2　特にこだわらない」を選んだ理由〉　　N＝７８

1　おいしさが他県産と差がない、又は他県産の方がおいしいから	28人	35.9%
2　新鮮さが他県産と差がないから	38人	48.7%
3　他県産の方が品質が良いから	1人	1.3%
4　その他	10人	12.8%
無回答	1人	1.3%



〈「1　県内産を優先して購入」を選んだ理由〉

「新鮮だから」が 44.2%と最も高く、以下「安全性などで安心感を持てるから」14.4%などの順となっている。

「その他」は「自家栽培しているから」「地元の朝市で購入しているから」など。

〈「2　特にこだわらない」を選んだ理由〉

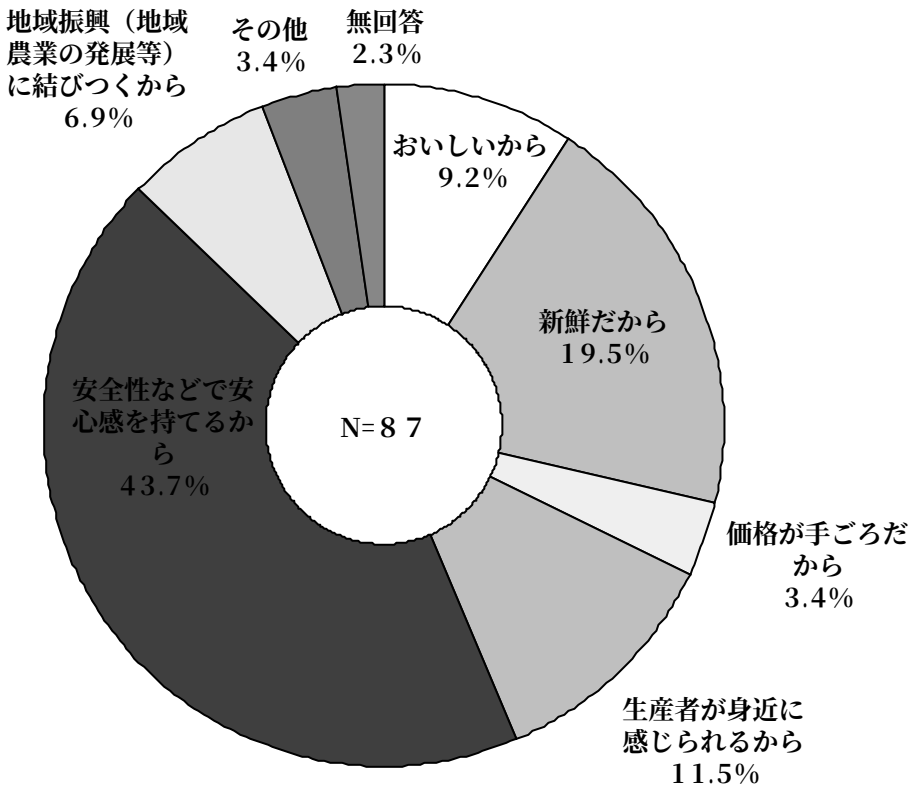
「新鮮さが他県産と差がないから」が 48.7%と最も高く、以下「おいしさが他県産と差がない、又は他県産の方がおいしいから」35.9%などの順となっている。

「その他」は「価格優先だから（3件）」「全て県産で賄えないから」など。

ウ）畜産物

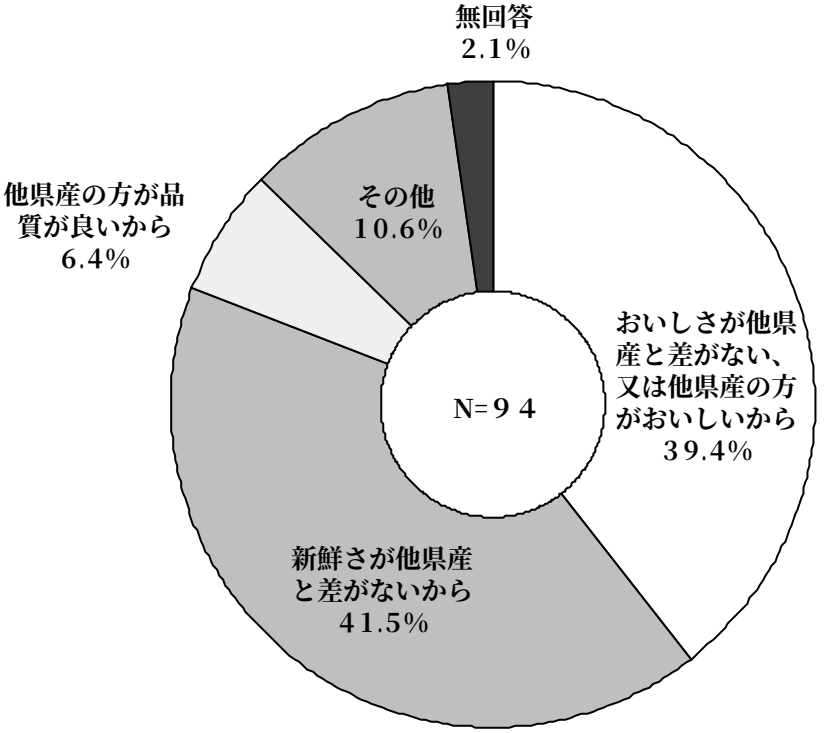
〈「1　県内産を優先して購入」を選んだ理由〉　　N＝８７

1	おいしいから	8 人	9.2%
2	新鮮だから	17 人	19.5%
3	価格が手ごろだから	3 人	3.4%
4	生産者が身近に感じられるから	10 人	11.5%
5	安全性などで安心感を持てるから	38 人	43.7%
6	地域振興（地域農業の発展等）に結びつくから	6 人	6.9%
7	その他	3 人	3.4%
	無回答	2 人	2.3%



〈「2　特にこだわらない」を選んだ理由〉　　N＝９４

1　おいしさが他県産と差がない、又は他県産の方がおいしいから	37人	39.4%
2　新鮮さが他県産と差がないから	39人	41.5%
3　他県産の方が品質が良いから	6人	6.4%
4　その他	10人	10.6%
無回答	2人	2.1%



〈「1　県内産を優先して購入」を選んだ理由〉

「安全性などで安心感を持てるから」が 43.7%と最も高く、以下「新鮮だから」19.5%、「生産者が身近に感じられるから」11.5%などの順となっている。

「その他」は「ブランド名（越後もちぶた・村上牛など）があるから」など。

〈「2　特にこだわらない」を選んだ理由〉

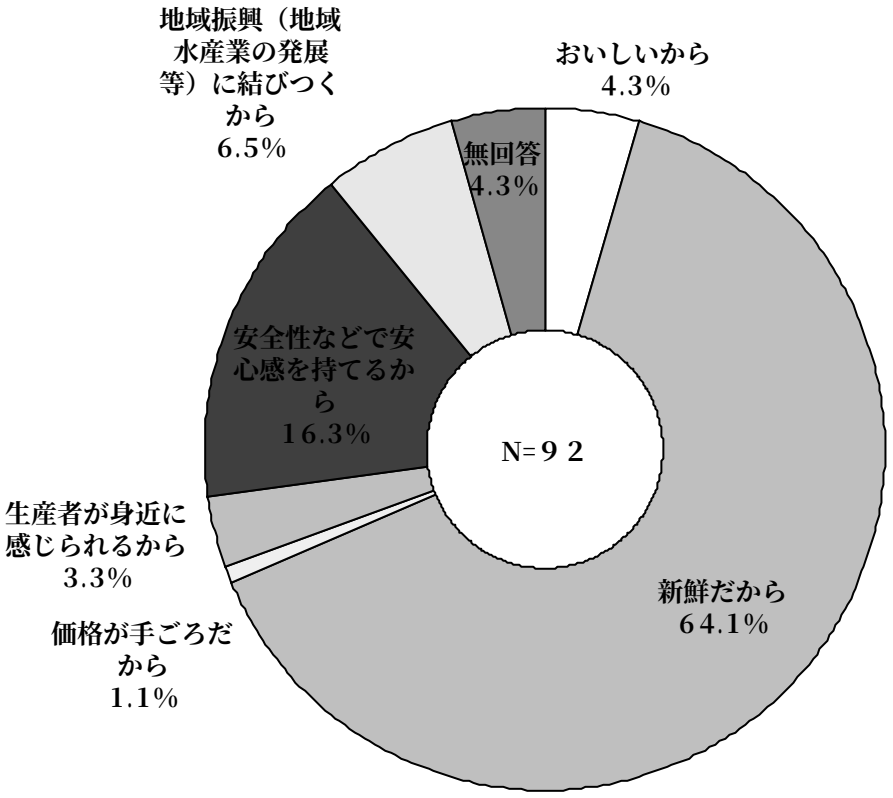
「新鮮さが他県産と差がないから」が 41.5%と最も高く、以下「おいしさが他県産と差がない、又は他県産の方がおいしいから」39.4%などの順となっている。

「その他」は「価格優先だから（４件）」「新潟産の表示が目立たないから」など。

エ）水産物

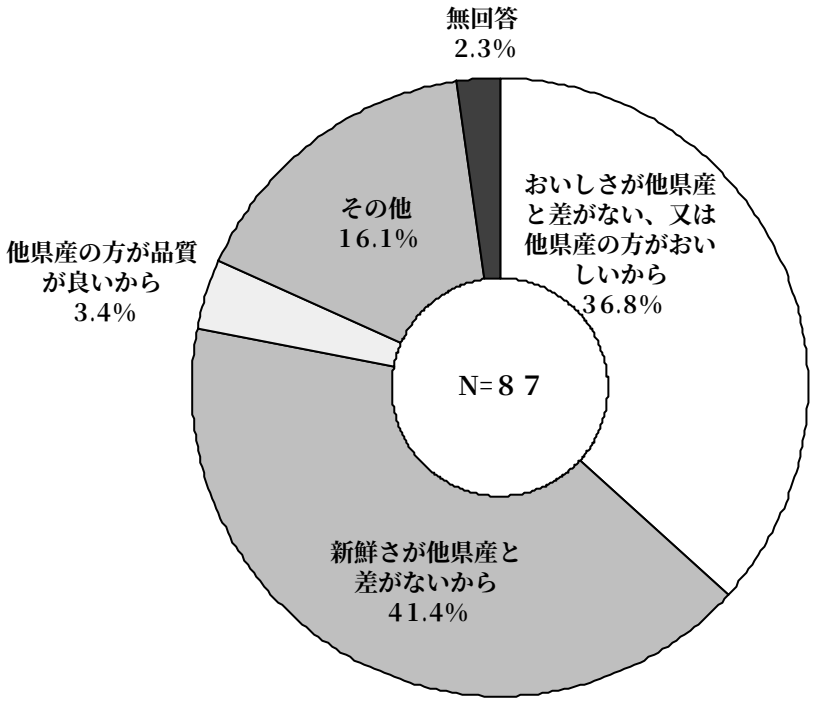
〈「１　県内産を優先して購入」を選んだ理由〉　　N＝９２

１	おいしいから	４人	4.3%
２	新鮮だから	59人	64.1%
３	価格が手ごろだから	１人	1.1%
４	生産者が身近に感じられるから	３人	3.3%
５	安全性などで安心感を持てるから	15人	16.3%
６	地域振興（地域水産業の発展等）に結びつくから	６人	6.5%
７	その他	０人	0.0%
	無回答	４人	4.3%



〈「２　特にこだわらない」を選んだ理由〉　　N＝８７

１　おいしさが他県産と差がない、又は他県産の方がおいしいから	３２人	36.8%
２　新鮮さが他県産と差がないから	３６人	41.4%
３　他県産の方が品質が良いから	３人	3.4%
４　その他	１４人	16.1%
無回答	２人	2.3%



〈「１　県内産を優先して購入」を選んだ理由〉

「新鮮だから」が６4.1%と最も高く、以下「安全性などで安心感を持てるから」16.3%などの順となっている。

〈「２　特にこだわらない」を選んだ理由〉

「新鮮さが他県産と差がないから」が４1.4%と最も高く、以下「おいしさが他県産と差がない、又は他県産の方がおいしいから」36.8%などの順となっている。

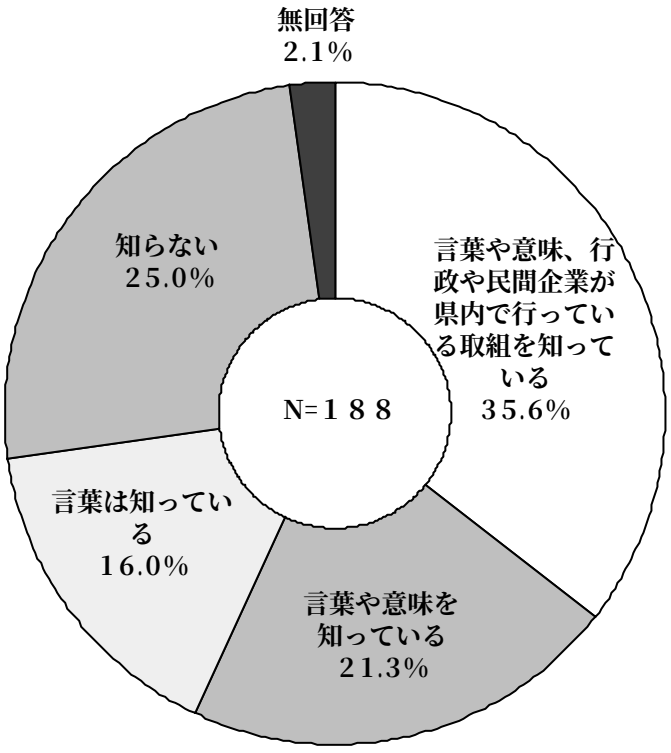
「その他」は「価格優先だから（４件)」「スーパーで売っていないから」「新潟産の表示が目立たないから」など。

【「地産地消」の認知度】

問５　県内で、“地場で生産した農林水産物をその地域で消費する”地産地消に関する取組がいろいろな形で進められていますが、知っていますか。（○は１つだけ）

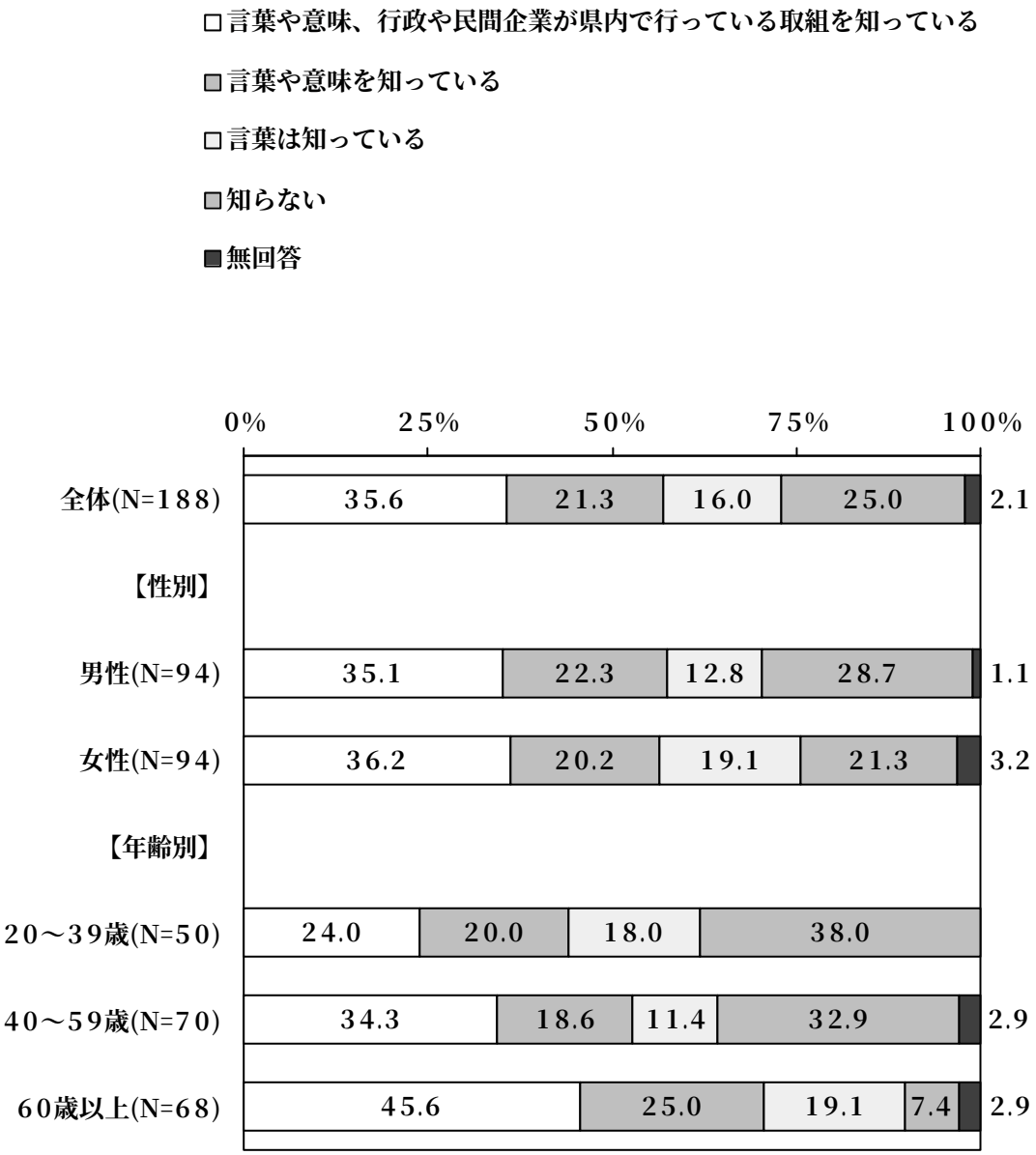
N＝１８８

１　言葉や意味、行政や民間企業が県内で行っている取組を知っている	６７人	３５.６%
２　言葉や意味を知っている	４０人	２１.３%
３　言葉は知っている	３０人	１６.０%
４　知らない	４７人	２５.０%
無回答	４人	２.１%



「言葉や意味、行政や民間企業が県内で行っている取組を知っている」が３５.６%と最も高く、以下「知らない」２５.０%、「言葉や意味を知っている」２１.３%、「言葉は知っている」１６.０%などの順となっている。

【性別・年齢別】


言葉や意味、行政や民間企業が県内で行っている取組を知っている
言葉や意味を知っている
言葉は知っている
知らない
無回答
0%
25%
50%
75%
100%
全体(N=188)
35.6
21.3
16.0
25.0
2.1
【性別】
男性(N=94)
35.1
22.3
12.8
28.7
1.1
女性(N=94)
36.2
20.2
19.1
21.3
3.2
【年齢別】
20～39歳(N=50)
24.0
20.0
18.0
38.0
40～59歳(N=70)
34.3
18.6
11.4
32.9
2.9
60歳以上(N=68)
45.6
25.0
19.1
7.4
2.9

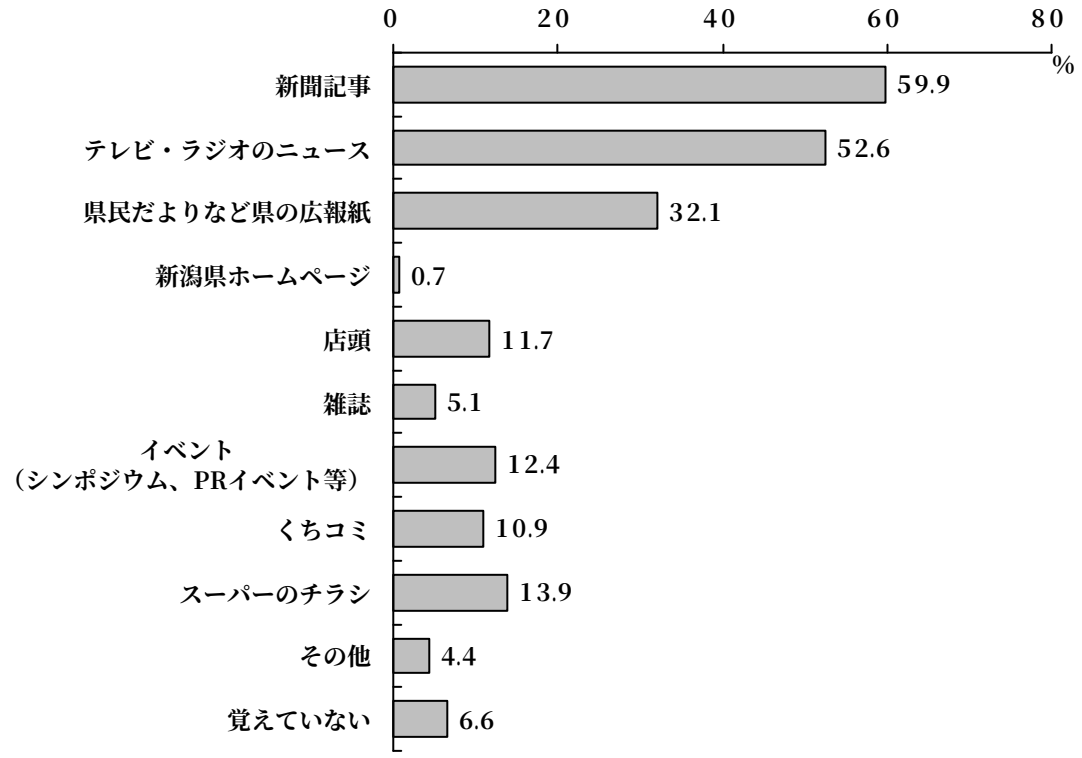
（問５で「１」～「３」に○を付けた方のみ回答）

【情報の入手方法】

問５－付問１　地産地消についてどのような方法で知りましたか。（○はいくつでも）

N＝１３７

1	新聞記事	82人	59.9%
2	テレビ・ラジオのニュース	72人	52.6%
3	県民だよりなど県の広報紙	44人	32.1%
4	新潟県ホームページ	1人	0.7%
5	店頭	16人	11.7%
6	雑誌	7人	5.1%
7	イベント（シンポジウム、ＰＲイベント等）	17人	12.4%
8	くちコミ	15人	10.9%
9	スーパーのチラシ	19人	13.9%
10	その他	6人	4.4%
11	覚えていない	9人	6.6%



「新聞記事」が59.9%と最も高く、以下「テレビ・ラジオのニュース」52.6%、「県民だよりなど県の広報紙」32.1%などの順となっている。

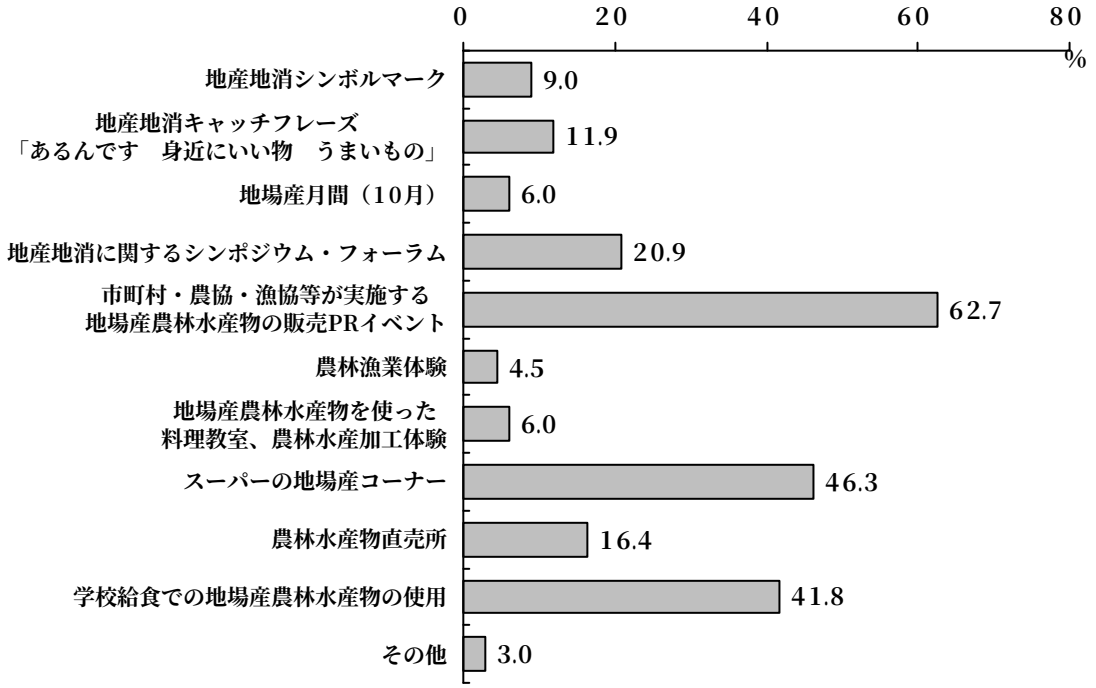
「その他」は、「職場」「民宿からの年賀状」「学校給食」など。

（問５で「１」に○を付けた方のみ回答）

【地産地消の普及活動に対する認知度】

問５－付問２　あなたが知っている、行政や民間企業が行う地産地消に関する取組はどれですか。（○はいくつでも）　N＝６７

１　地産地消シンボルマーク	６人	9.0%
２　地産地消キャッチフレーズ「あるんです　身近にいい物　うまいもの」	８人	11.9%
３　地場産月間（１０月）	４人	6.0%
４　地産地消に関するシンポジウム・フォーラム	14人	20.9%
５　市町村・農協・漁協等が実施する地場産農林水産物の販売 PR イベント	42人	62.7%
６　農林漁業体験	３人	4.5%
７　地場産農林水産物を使った料理教室、農林水産加工体験	４人	6.0%
８　スーパーの地場産コーナー	31人	46.3%
９　農林水産物直売所	11人	16.4%
10 学校給食での地場産農林水産物の使用	28人	41.8%
11 その他	２人	3.0%



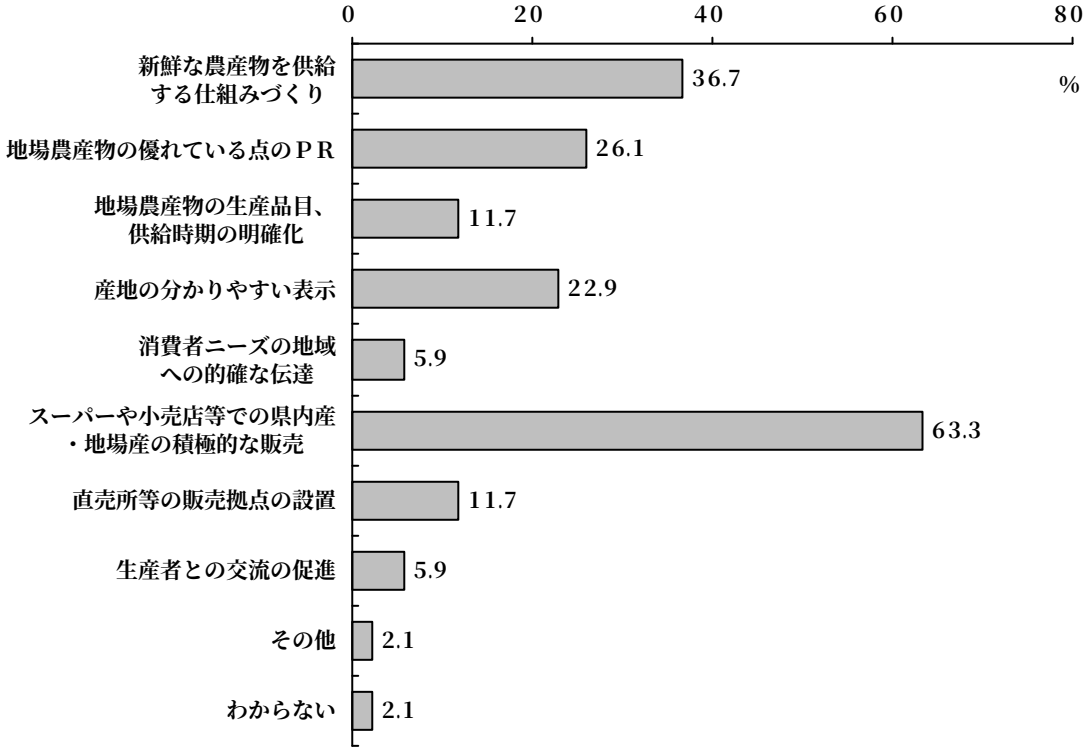
「市町村・農協・漁協等が実施する地場産農林水産物の販売 PR イベント」が 62.7%と最も高く、以下「スーパーの地場産コーナー」46.3%、「学校給食での地場産農林水産物の使用」41.8%、「地産地消に関するシンポジウム・フォーラム」20.9%などの順となっている。

【地場産農産物を安定して購入するために必要なもの】

問６　あなたは、消費者ニーズに即した地場農産物を安定して購入できるようにするためには、どのようなことが必要だと考えますか。（○は２つまで）

N＝１８８

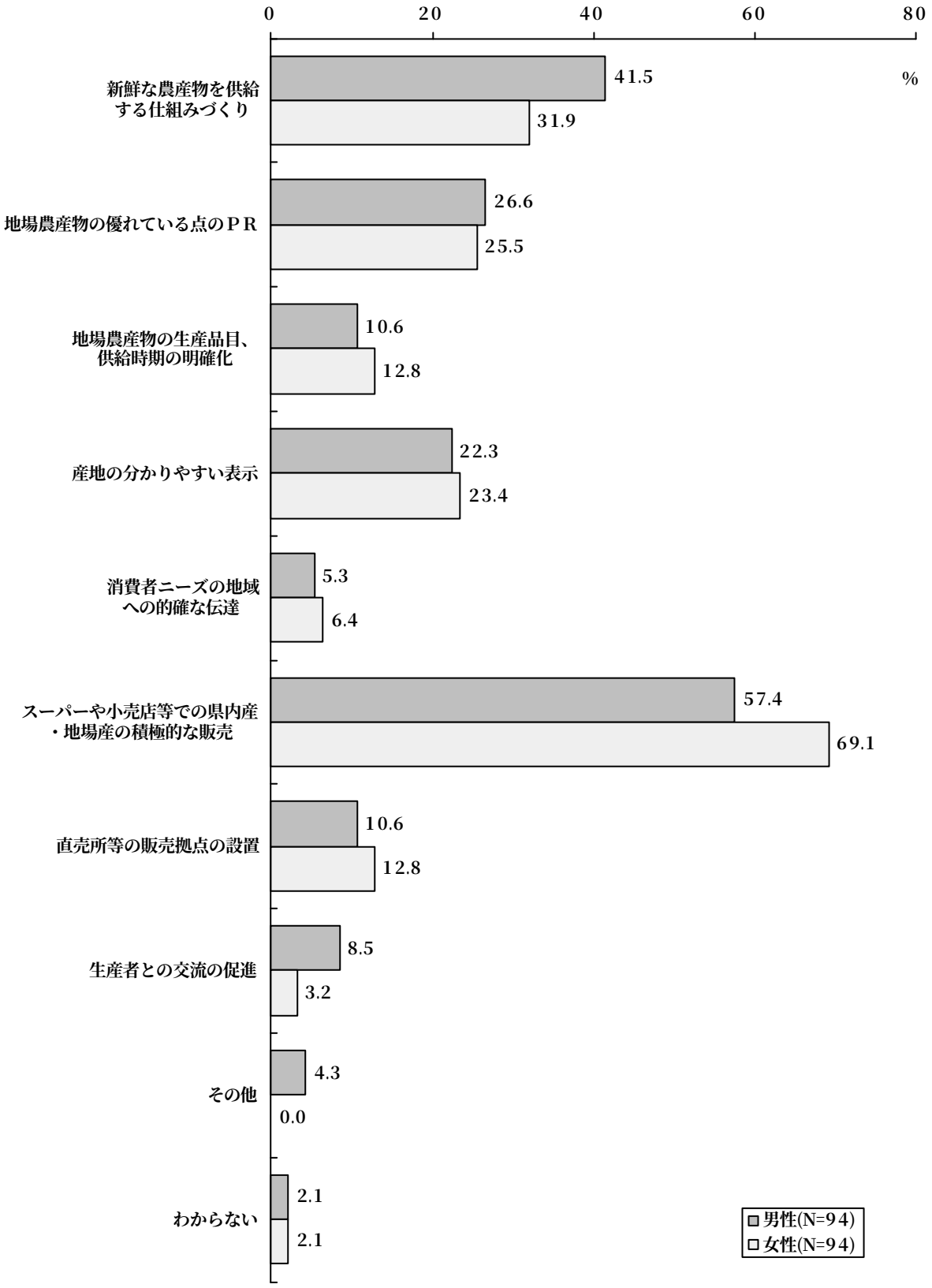
１	新鮮な農産物を供給する仕組みづくり	６９人	３６.７%
２	地場農産物の優れている点のＰＲ	４９人	２６.１%
３	地場農産物の生産品目、供給時期の明確化	２２人	１１.７%
４	産地の分かりやすい表示	４３人	２２.９%
５	消費者ニーズの地域への的確な伝達	１１人	５.９%
６	スーパーや小売店等での県内産・地場産の積極的な販売	１１９人	６３.３%
７	直売所等の販売拠点の設置	２２人	１１.７%
８	生産者との交流の促進	１１人	５.９%
９	その他	４人	２.１%
１０	わからない	４人	２.１%



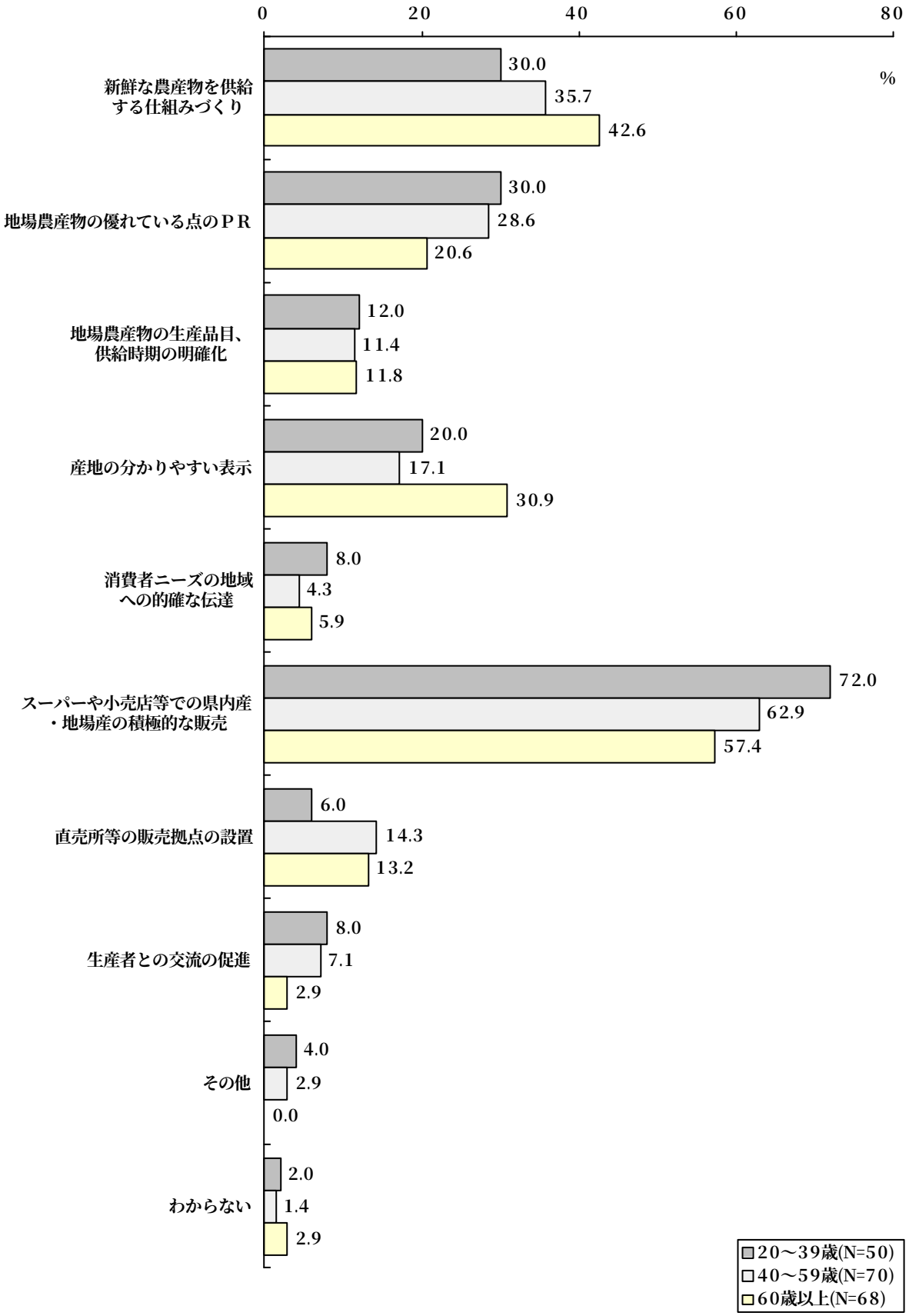
「スーパーや小売店等での県内産・地場産の積極的な販売」が６３.３%と最も高く、以下「新鮮な農産物を供給する仕組みづくり」３６.７%、「地場農産物の優れている点のＰＲ」２６.１%、「産地の分かりやすい表示」２２.９%などの順となっている。

「その他」は、「価格への配慮」「後継者の育成」など。

【性別】


0
20
40
60
80
%
新鮮な農産物を供給する仕組みづくり
41.5
31.9
地場農産物の優れている点のＰＲ
26.6
25.5
地場農産物の生産品目、供給時期の明確化
10.6
12.8
産地の分かりやすい表示
22.3
23.4
消費者ニーズの地域への的確な伝達
5.3
6.4
スーパーや小売店等での県内産・地場産の積極的な販売
57.4
69.1
直売所等の販売拠点の設置
10.6
12.8
生産者との交流の促進
8.5
3.2
その他
4.3
0.0
わからない
2.1
2.1
男性(N=94)
女性(N=94)

【年齢別】


0
20
40
60
80
%
新鮮な農産物を供給する仕組みづくり
30.0
35.7
42.6
地場農産物の優れている点のＰＲ
30.0
28.6
20.6
地場農産物の生産品目、供給時期の明確化
12.0
11.4
11.8
産地の分かりやすい表示
20.0
17.1
30.9
消費者ニーズの地域への的確な伝達
8.0
4.3
5.9
スーパーや小売店等での県内産・地場産の積極的な販売
72.0
62.9
57.4
直売所等の販売拠点の設置
6.0
14.3
13.2
生産者との交流の促進
8.0
7.1
2.9
その他
4.0
2.9
0.0
わからない
2.0
1.4
2.9
20～39歳(N=50)
40～59歳(N=70)
60歳以上(N=68)

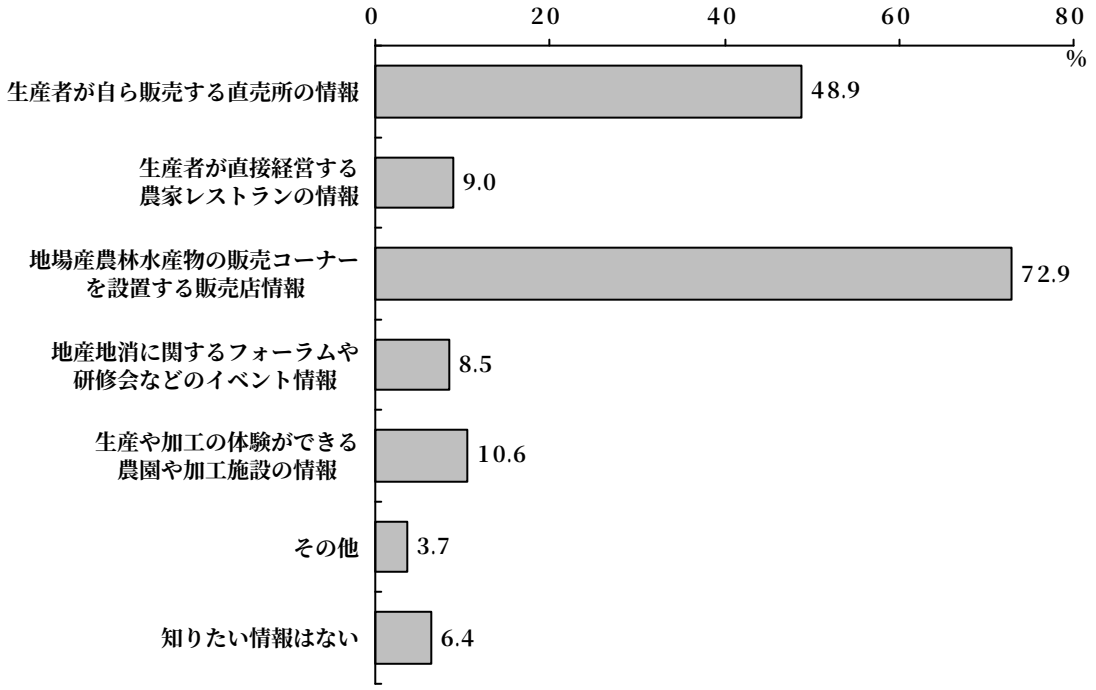
【地産地消の情報として必要なもの】

問７　あなたが地産地消の情報として知りたいと思うものはどれですか。

（○は２つまで）

N＝１８８

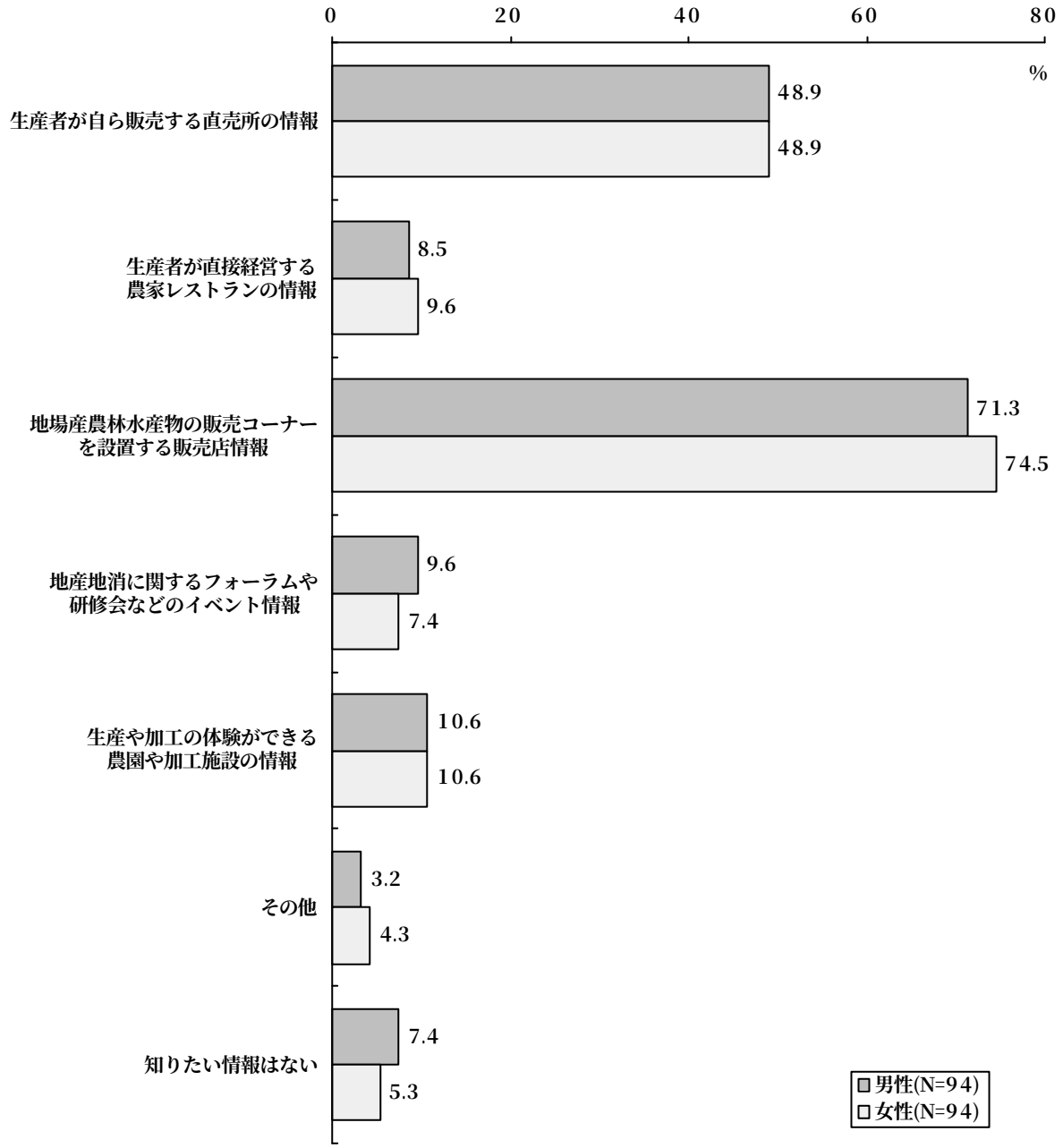
１	生産者が自ら販売する直売所の情報	９２人	48.9%
２	生産者が直接経営する農家レストランの情報	１７人	9.0%
３	地場産農林水産物の販売コーナーを設置する販売店情報（スーパー、青果店等）	１３７人	72.9%
４	地産地消に関するフォーラムや研修会などのイベント情報	１６人	8.5%
５	生産や加工の体験ができる農園や加工施設の情報	２０人	10.6%
６	その他	７人	3.7%
７	知りたい情報はない	１２人	6.4%



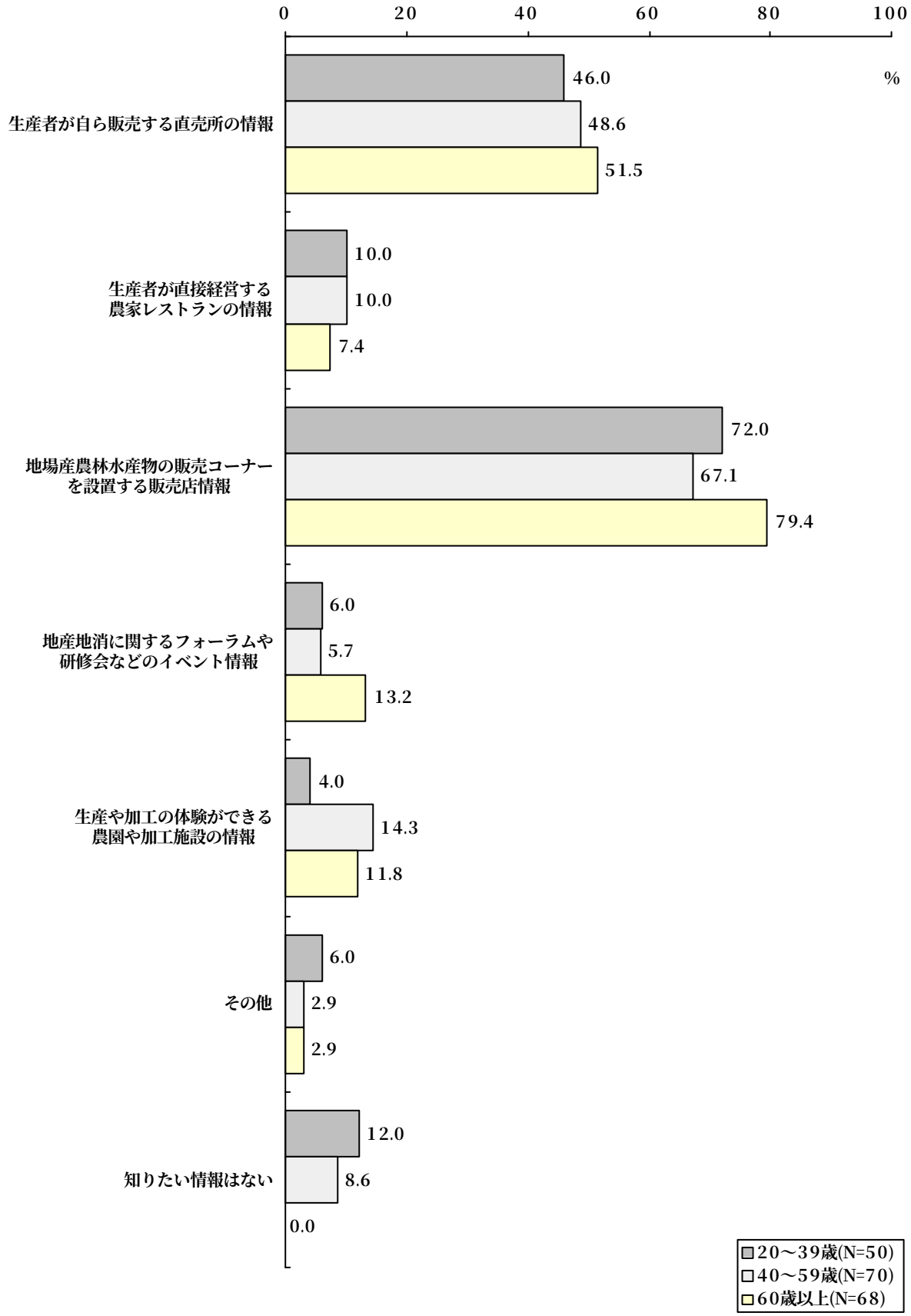
「地場産農林水産物の販売コーナーを設置する販売店情報」が 72.9%と最も高く、以下「生産者が自ら販売する直売所の情報」48.9%などの順となっている。

「その他」は、「生産者のプロフィール」「生産場所」「工夫した点」「生産履歴（どれだ安全で美味しいか）」など。

【性別】


0
20
40
60
80
%
生産者が自ら販売する直売所の情報
48.9
48.9
生産者が直接経営する
農家レストランの情報
8.5
9.6
地場産農林水産物の販売コーナー
を設置する販売店情報
71.3
74.5
地産地消に関するフォーラムや
研修会などのイベント情報
9.6
7.4
生産や加工の体験ができる
農園や加工施設の情報
10.6
10.6
その他
3.2
4.3
知りたい情報はない
7.4
5.3
男性(N=94)
女性(N=94)

【年齢別】


0
20
40
60
80
100
%
生産者が自ら販売する直売所の情報
46.0
48.6
51.5
生産者が直接経営する
農家レストランの情報
10.0
10.0
7.4
地場産農林水産物の販売コーナー
を設置する販売店情報
72.0
67.1
79.4
地産地消に関するフォーラムや
研修会などのイベント情報
6.0
5.7
13.2
生産や加工の体験ができる
農園や加工施設の情報
4.0
14.3
11.8
その他
6.0
2.9
2.9
知りたい情報はない
12.0
8.6
0.0
20～39歳(N=50)
40～59歳(N=70)
60歳以上(N=68)

【食生活指針の実践について】

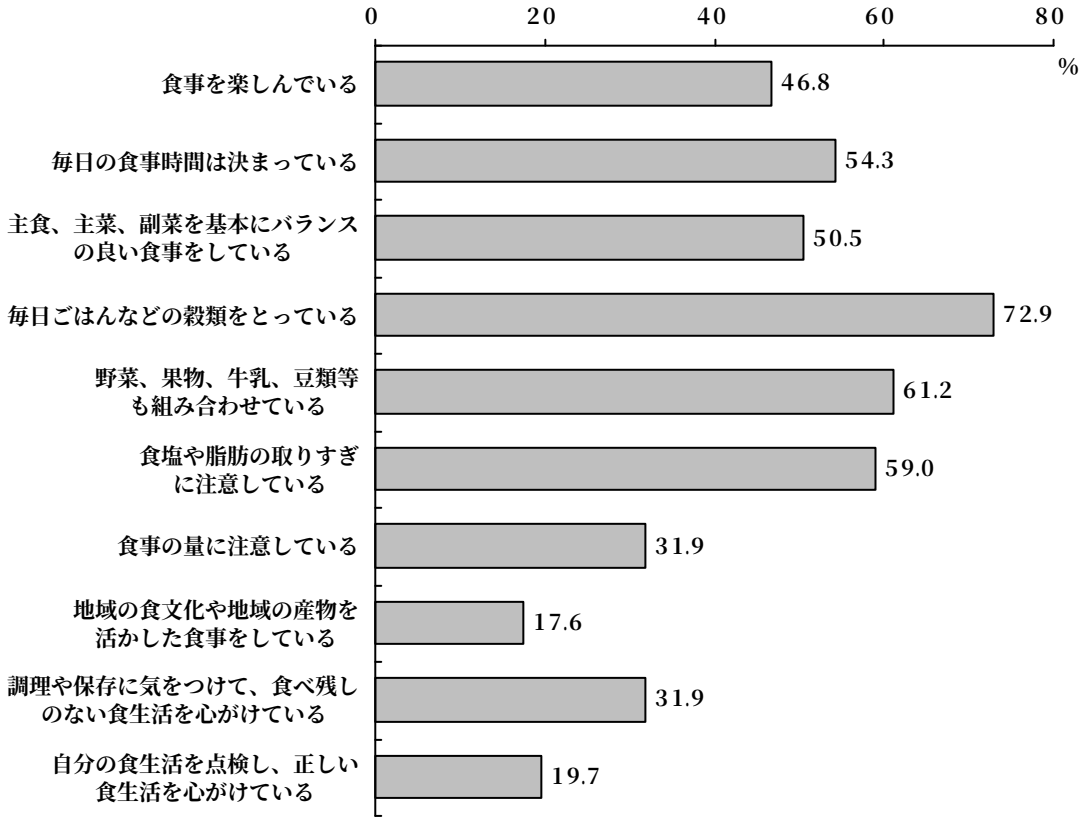
問８　国は「食生活指針」を策定し、国民の健康の増進、生活の質の向上及び食料の安定供給の確保を目指しています。

次の食生活指針１０項目のうち、あなたが実践しているものはどれですか。

（○はいくつでも）

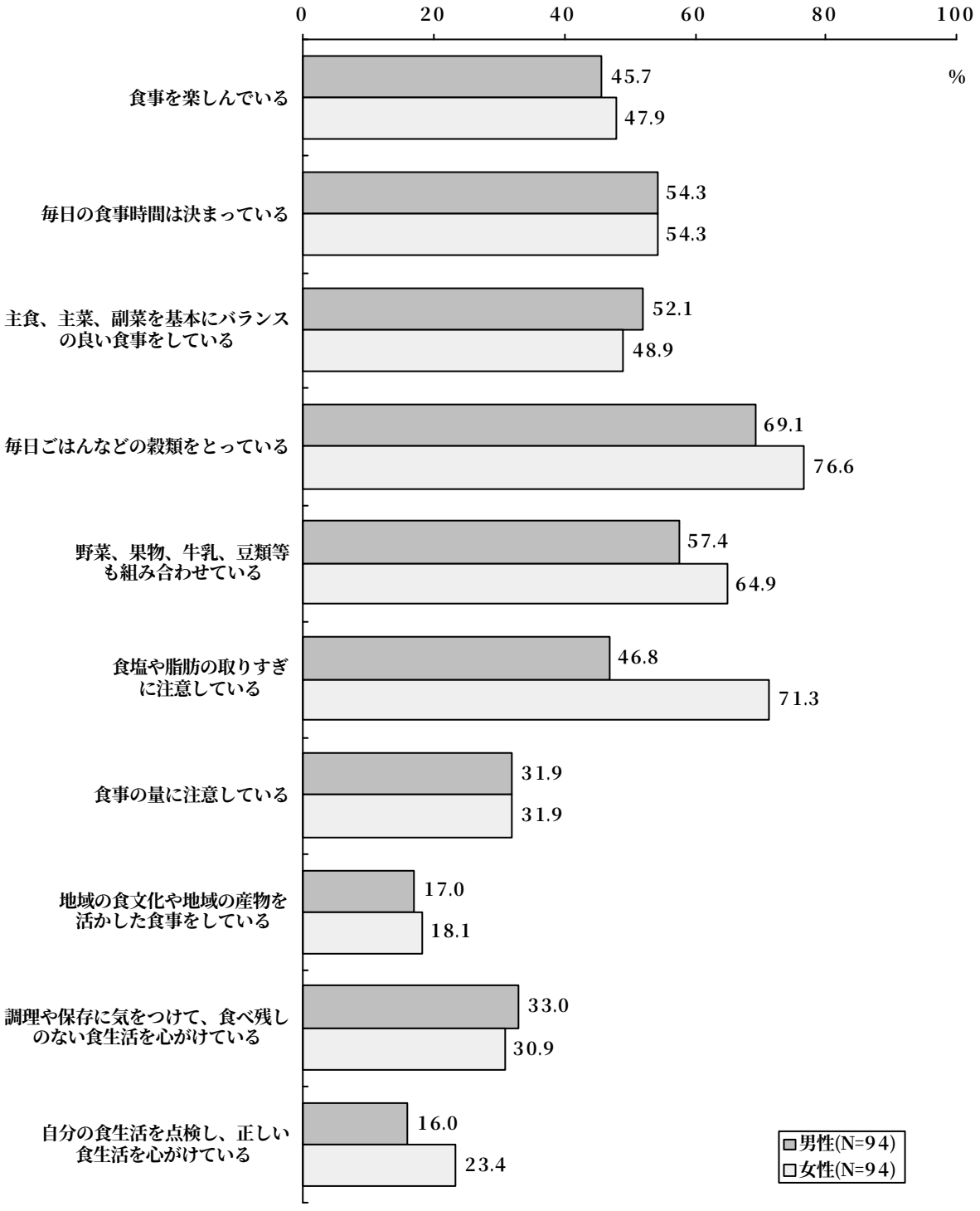
N＝１８８

1	食事を楽しんでいる	88人　46.8%
2	毎日の食事時間は決まっている	102人　54.3%
3	主食、主菜、副菜を基本にバランスの良い食事をしている	95人　50.5%
4	毎日ごはんなどの穀類をとっている	137人　72.9%
5	野菜、果物、牛乳、豆類等も組み合わせている	115人　61.2%
6	食塩や脂肪の取りすぎに注意している	111人　59.0%
7	食事の量に注意している	60人　31.9%
8	地域の食文化や地域の産物を活かした食事をしている	33人　17.6%
9	調理や保存に気をつけて、食べ残しのない食生活を心がけている	60人　31.9%
10	自分の食生活を点検し、正しい食生活を心がけている	37人　19.7%

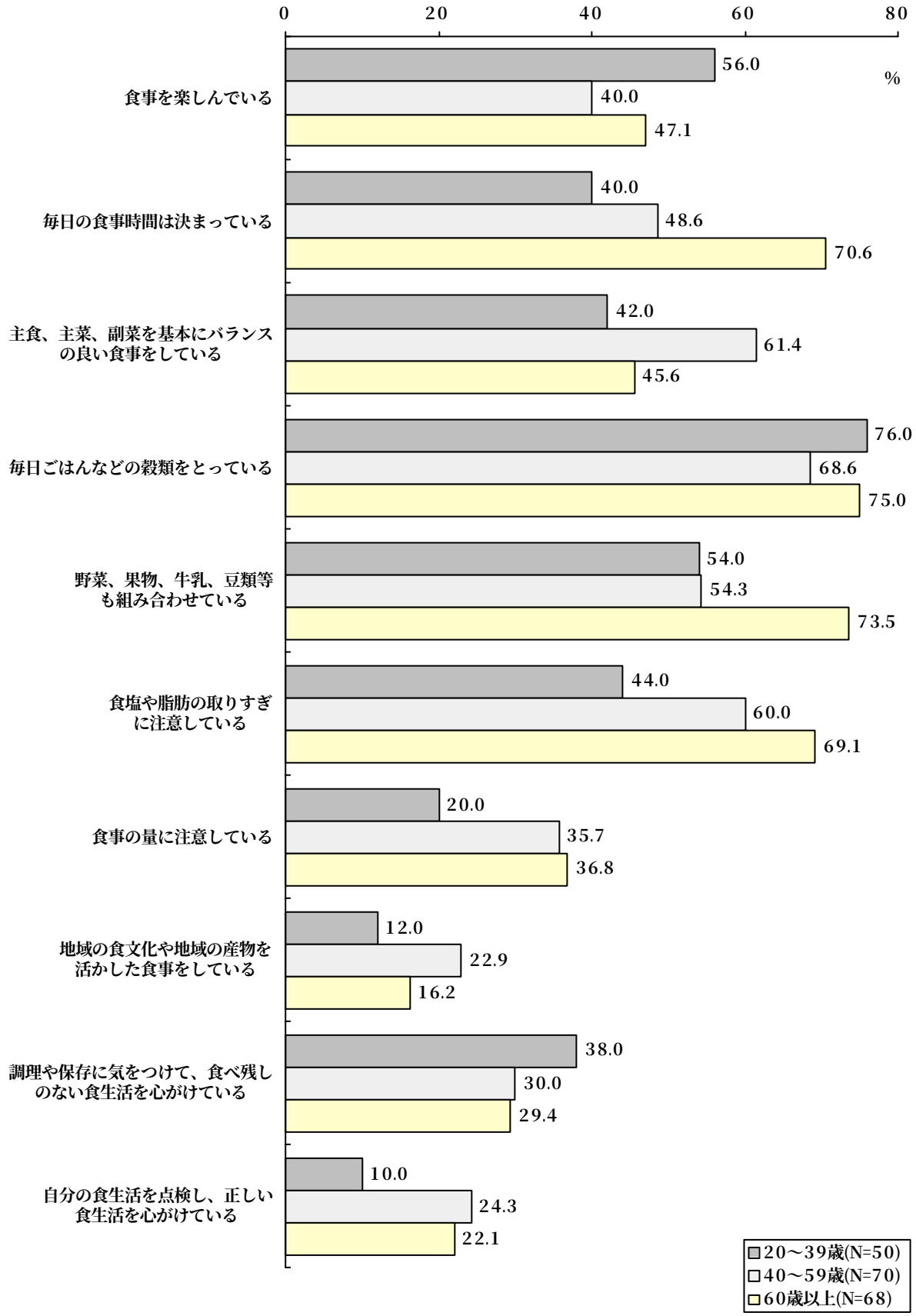


「毎日ごはんなどの穀類をとっている」が72.9%と最も高く、以下「野菜、果物、牛乳、豆類等も組み合わせている」61.2%、「食塩や脂肪の取りすぎに注意している」59.0%、「毎日の食事時間は決まっている」54.3%、「主食、主菜、副菜を基本にバランスの良い食事をしている」50.5%などの順となっている。

【性別】



【年齢別】

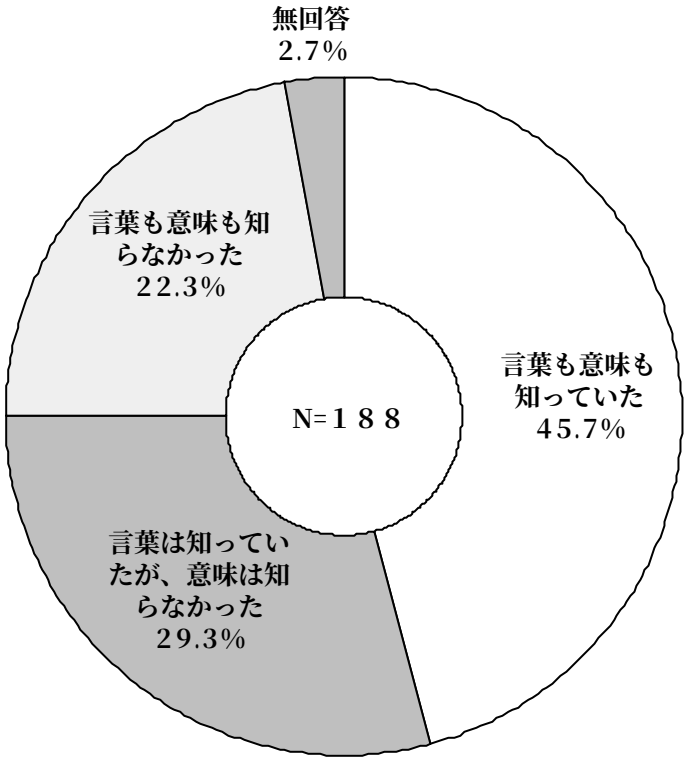

0
20
40
60
80
%
食事を楽しんでいる
56.0
40.0
47.1
毎日の食事時間は決まっている
40.0
48.6
70.6
主食、主菜、副菜を基本にバランスの良い食事をしている
42.0
61.4
45.6
毎日ごはんなどの穀類をとっている
76.0
68.6
75.0
野菜、果物、牛乳、豆類等も組み合わせている
54.0
54.3
73.5
食塩や脂肪の取りすぎに注意している
44.0
60.0
69.1
食事の量に注意している
20.0
35.7
36.8
地域の食文化や地域の産物を活かした食事をしている
12.0
22.9
16.2
調理や保存に気をつけて、食べ残しのない食生活を心がけている
38.0
30.0
29.4
自分の食生活を点検し、正しい食生活を心がけている
10.0
24.3
22.1
20～39歳(N=50)
40～59歳(N=70)
60歳以上(N=68)

【「食育」の認知度】

問９　「食育※」という言葉やその意味を知っていましたか。（○は１つだけ）

N＝１８８

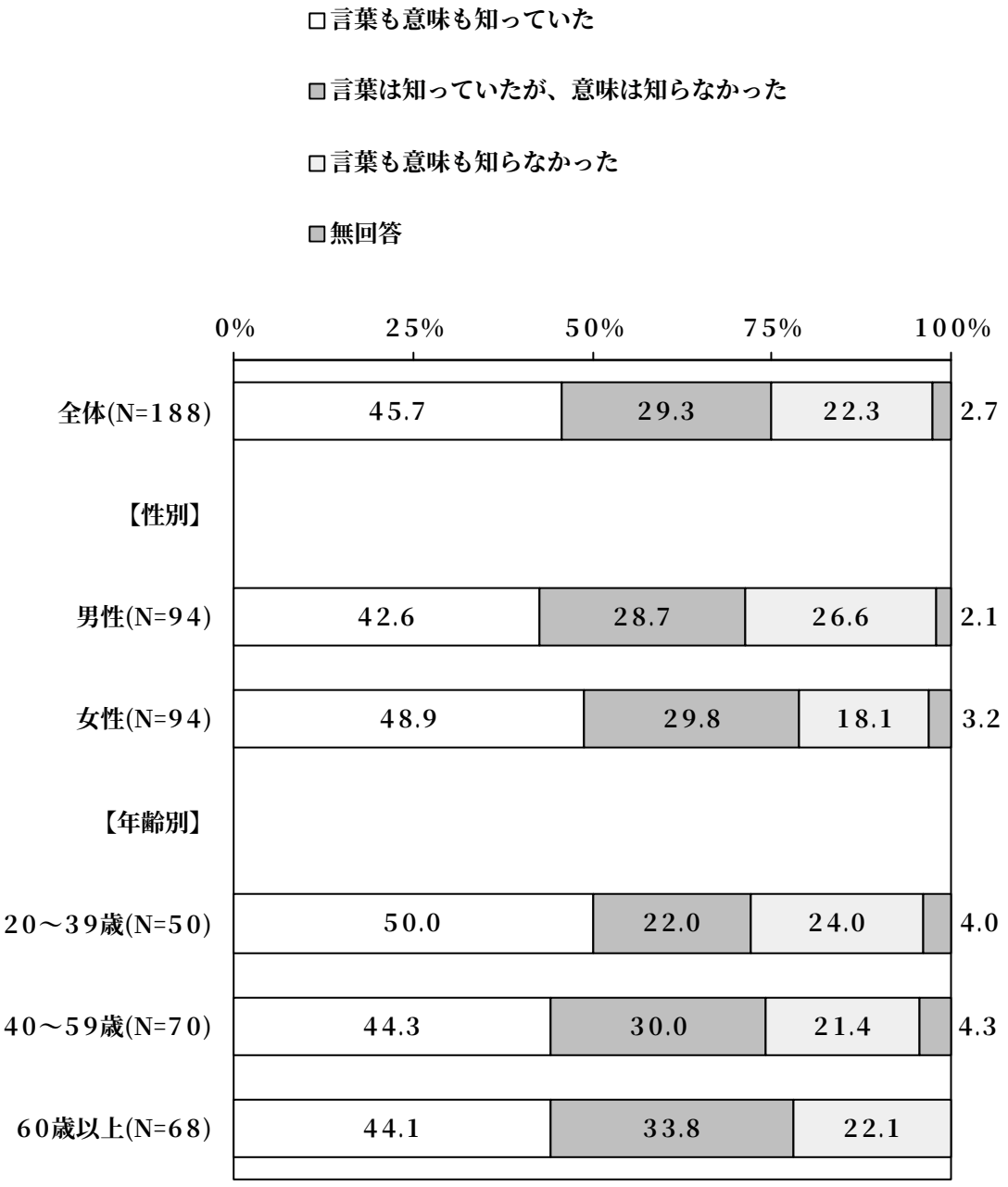
１	言葉も意味も知っていた	８６人	４５.７％
２	言葉は知っていたが、意味は知らなかった	５５人	２９.３％
３	言葉も意味も知らなかった	４２人	２２.３％
	無回答	５人	２.７％



※食育～「食」に関する知識と「食」を選択する力を習得し、健全な食生活を実践することができる人間を育てること（平成１７年制定「食育基本法」より）

「言葉も意味も知っていた」が４５.７％と最も高く、以下「言葉は知っていたが、意味は知らなかった」２９.３％、「言葉も意味も知らなかった」２２.３％などの順となっている。

【性別・年齢別】

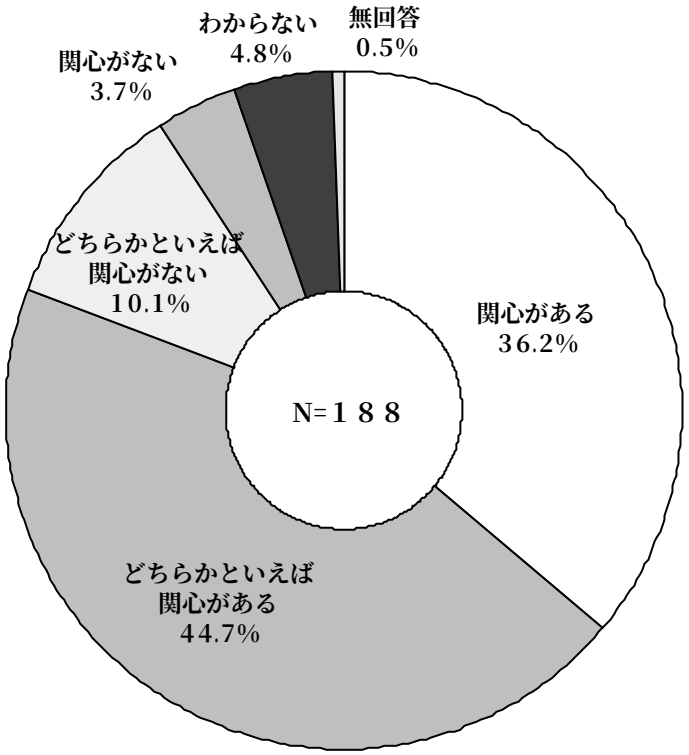

□言葉も意味も知っていた
□言葉は知っていたが、意味は知らなかった
□言葉も意味も知らなかった
□無回答
0%
25%
50%
75%
100%
全体(N=188)
45.7
29.3
22.3
2.7
【性別】
男性(N=94)
42.6
28.7
26.6
2.1
女性(N=94)
48.9
29.8
18.1
3.2
【年齢別】
20～39歳(N=50)
50.0
22.0
24.0
4.0
40～59歳(N=70)
44.3
30.0
21.4
4.3
60歳以上(N=68)
44.1
33.8
22.1

【「食育」への関心度】

問１０　「食育」に関心がありますか。（○は１つだけ）

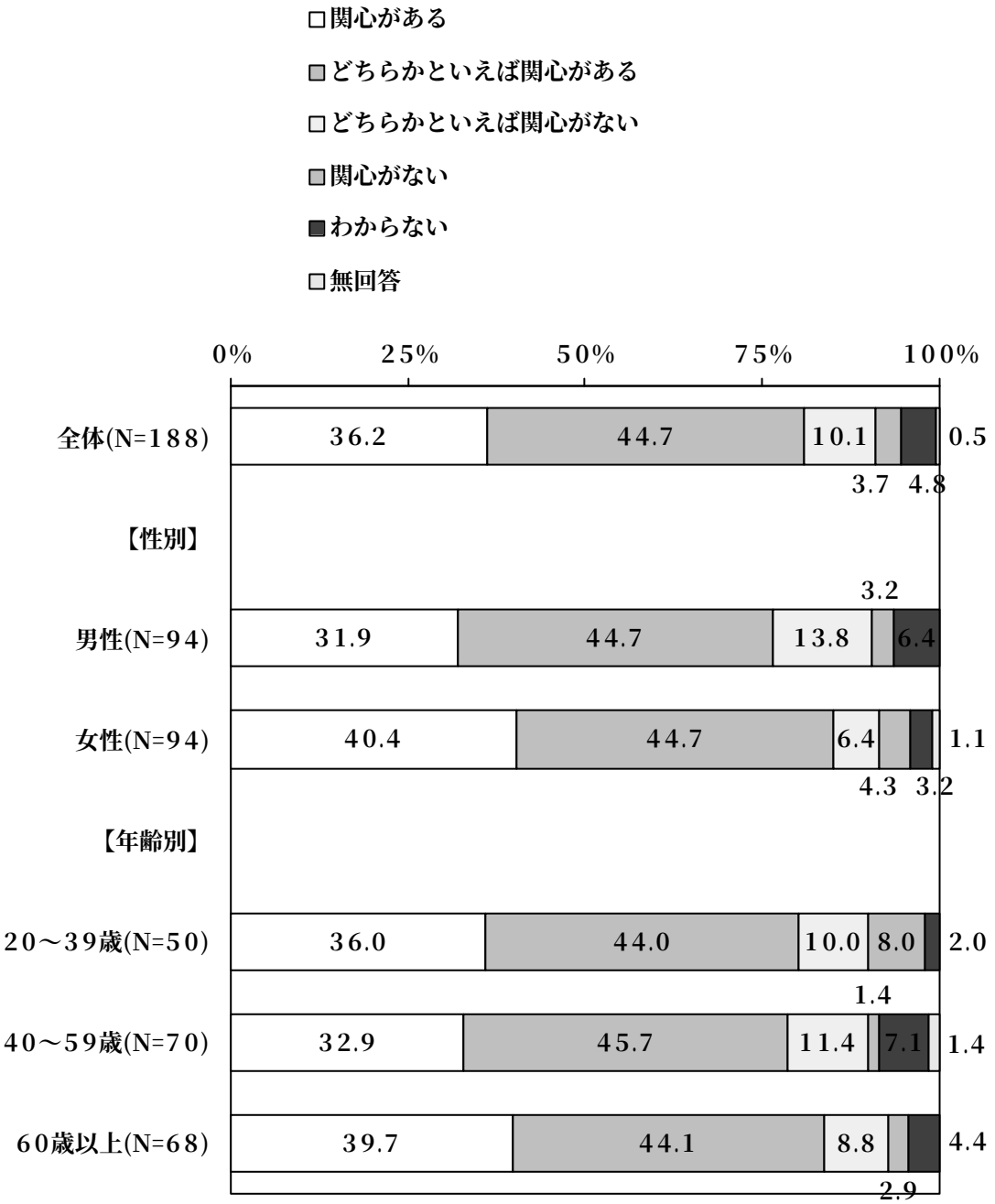
N＝１８８

1	関心がある	68 人	36.2%
2	どちらかといえば関心がある	84 人	44.7%
3	どちらかといえば関心がない	19 人	10.1%
4	関心がない	7 人	3.7%
5	わからない	9 人	4.8%
	無回答	1 人	0.5%



「どちらかといえば関心がある」が 44.7%と最も高く、以下「関心がある」36.2%、「どちらかといえば関心がない」10.1%などの順となっている。

【性別・年齢別】


関心がある
どちらかといえば関心がある
どちらかといえば関心がない
関心がない
わからない
無回答
0%
25%
50%
75%
100%
全体(N=188)
36.2
44.7
10.1
3.7
4.8
0.5
【性別】
男性(N=94)
31.9
44.7
13.8
3.2
6.4
女性(N=94)
40.4
44.7
6.4
4.3
3.2
1.1
【年齢別】
20～39歳(N=50)
36.0
44.0
10.0
8.0
1.4
2.0
40～59歳(N=70)
32.9
45.7
11.4
7.1
1.4
60歳以上(N=68)
39.7
44.1
8.8
2.9
4.4

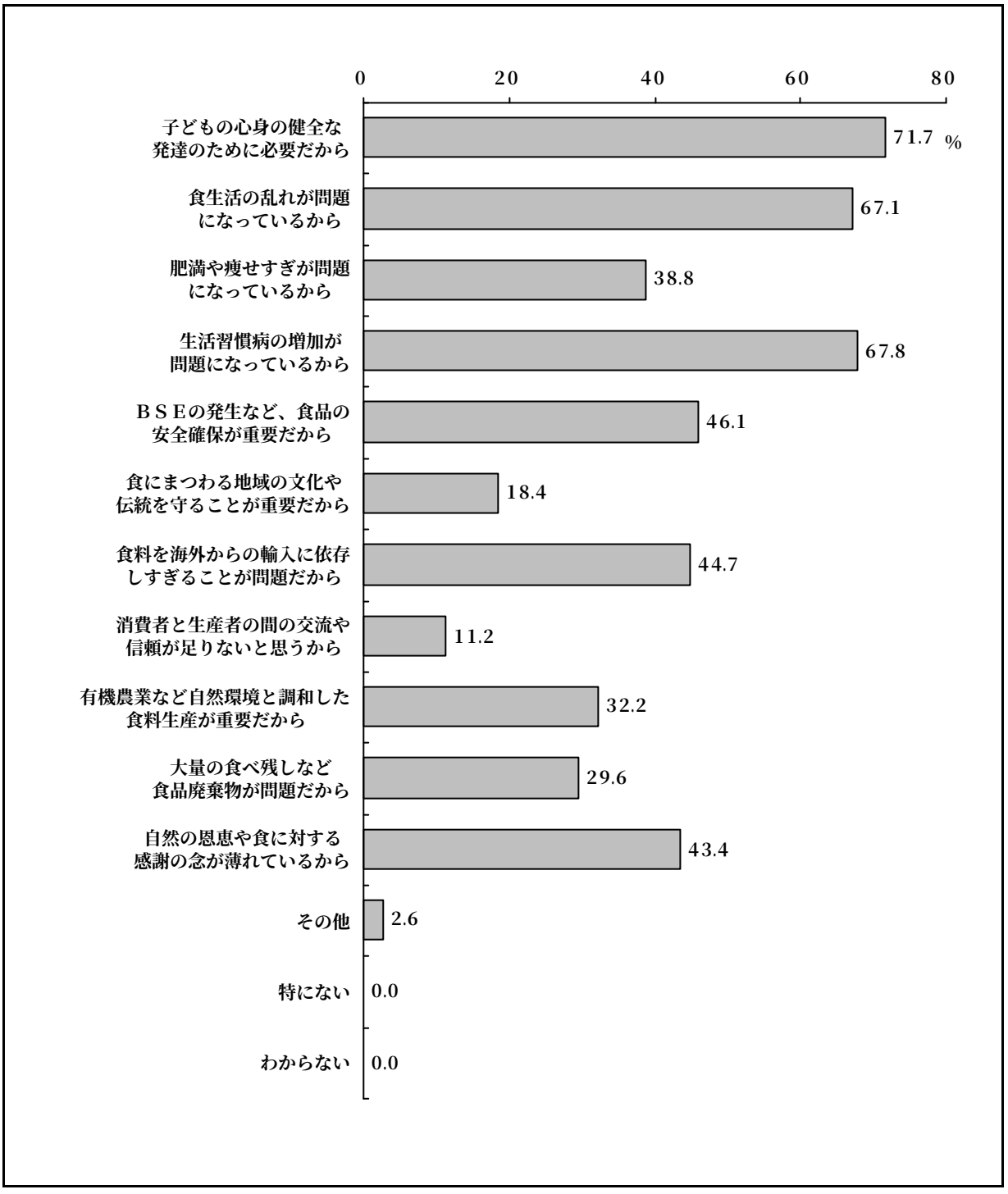
（問１０で「１」または「２」に○を付けた方のみ回答）

【関心のある理由】

問１０－付問　あなたが「食育」に関心がある理由は何ですか。（○はいくつでも）

N＝１５２

1　子どもの心身の健全な発達のために必要だから	109人	71.7%
2　食生活の乱れ（栄養バランスの崩れ、不規則な食事等）が問題になっているから	102人	67.1%
3　肥満や痩せすぎが問題になっているから	59人	38.8%
4　生活習慣病（ガン、糖尿病等）の増加が問題になっているから	103人	67.8%
5　ＢＳＥの発生など、食品の安全確保が重要だから	70人	46.1%
6　食にまつわる地域の文化や伝統を守ることが重要だから	28人	18.4%
7　食料を海外からの輸入に依存しすぎることが問題だから	68人	44.7%
8　消費者と生産者の間の交流や信頼が足りないと思うから	17人	11.2%
9　有機農業など自然環境と調和した食料生産が重要だから	49人	32.2%
10 大量の食べ残しなど食品廃棄物が問題だから	45人	29.6%
11 自然の恩恵や食に対する感謝の念が薄れているから	66人	43.4%
12 その他	4人	2.6%
13 特にない	0人	0.0%
14 わからない	0人	0.0%



「子どもの心身の健全な発達のために必要だから」が 71.7%と最も高く、以下「生活習慣病（ガン、糖尿病等）の増加が問題になっているから」67.8%、「食生活の乱れ（栄養バランスの崩れ、不規則な食事等）が問題になっているから」67.1%などの順となっている。

「その他」は、「楽しく食べたいから」「国産（県産）農作物の重要性（美味しさ・安全性）を消費者に伝える必要があるから」「食事よりサプリメントを重視する人が増えたから」など。

【地場産農産物や食育に関する自由意見】

問１１　これまでお答えいただいた以外に、地場産農産物や食育について、ご意見やご提案がありましたら、ご自由にお書き下さい。

●　食の安心・安全について

○　日本人は昔から安全な食事を取ってきたという意識があると思います。生産に対して信頼しており、安全なものを提供してくれると信じています。できれば県内・国内で自給できておいしい物が食べられれば最高ですが、安全なものならどこのものでもいいと思います。政府は食の安全性についてもっと真剣に考えてほしいです。

○　食べ物は人間を作ります。だから食べ物は大切です。食べ物は安全であることが大切で、無農薬・有機栽培・自然農法が基本です。流通もこのことに注意すべきです。

○　日本の食料自給率が年々低下していくことが気になります。除草剤や肥料のせいなのでしょうか、イナゴやザリガニがほとんど姿を見せないのが気になります。

○　食べ物ですから、まず安全な品物が第一と思います。小肉多菜を実行しています。

○　地場産農産物について、近隣からのいただき物とスーパー物では味が違いすぎます。安全性に自信のある作物を出荷してほしいです。

○　基本的に酸性雨や放射能の２点は避けられません。影響を受けているので、無農薬・有機栽培は気休め程度と考えています。ただ、魚の養殖に関しては抗生物質、輸入品はポストハーベストや残留農薬・ＢＳＥと千差万別なので気をつけなければなりません。費用がかかってもいいので、しっかり検査してほしいです。

○　食品の安全性（農薬・遺伝子組み換え・ＢＳＥ問題）を考えて新潟産・国産を購入しています。

○　我が家には、４人の男の子がいるのでとにかく食べます。安全で新鮮な物と思いながらもやはり決め手は価格になってしまいます。

○　スローフードという言葉と意味が知られるようになってから、県内産や旬の物への関心が高まってきました。最近は日光に一切当たらず、土にも植えない水耕栽培の野菜がまるで機械のようにオートメーション化により作られ、不安です。

○　私の家ではなるべく安全な食物を摂るように気をつけています。農産物は国内産を買うようにしています。値段が安いから買うというのは問題があります。

○　アメリカ産牛肉などの問題があり、なるべく国産を中心に安全な物を求めていきたいと思っています。身近な生産者が見える方がいいです。

○　土地を借り受け自家菜園（１００坪）をやっていますので、野菜作りの苦労は知っていますが、店で買う品も多種あります。無農薬が理想ですが多少は容認します。

● 「食育」について

○　学校などでも「食育」を取り入れた授業をしているようです。子ども達や親にとって良いことだと思います。しかし、家庭ではなかなか実践できません。自宅でも「食育」ができるような情報やわかりやすく教えてくれる場が必要です。

○　食物がごく当たり前に店頭に並んでいるために、食物に対する感謝の念が薄れています。海外産も含め、野菜や畜産物が食卓に並ぶまでの過程や食品廃棄物の問題などの情報を提供し、食育に徹底的に取り組む必要があると思います。

○　我が家も食べ物を大切にせず、食べ物の１～２割程度は無駄にしていると思います。生産者に感謝して、残さずに食べることが大切とわかっているのですが・・・。

○　食育に関しては、幼児期から個人の好みが確立される前の幼児期や小学生低学年に対して、母親と共に啓発教育した方がいいと思います。

○　戦争時の食糧不足を考えると、現代はあまりにも物の大切さを忘れています。食に対する思いを徹底的に子供に教育すべきです。

○　食育について問題になること自体困った現象です。子供については親がしつけること、大人へは各機関による広報・研修などの機会を多くするしかないと思います。

○　小学生のときから箸の持ち方・食事のマナー・食事の仕方・メニューの説明等、躾として当然のこととして教えられたことを学校でも指導する必要があると思います。

○　子ども達にも小さい頃から幼稚園や小学校で先生方がわかりやすく教えてあげてほしいと思います。

○　子供が生まれてから食育に興味があります。身近なところから取り組めるようＰＲ活動を期待しています。

○　学校でも食育について子ども達や親に話していますが、なかなか難しいようです。

○　２０～３０歳までの人には朝食抜きという人が多く、仕事を理由に子ども達に食べさせないという現状があります。親の意識をもっと高めていかないと大変なことになると思います。生活習慣の乱れは全てに通じます。

○　子育ての親たちに食育を指導してほしいです。

○　食育ということがここ数年間取り上げられるようになってきましたが、初めのうちは「当たり前のことなのに、なぜ食育ということが取り上げられるのか」疑問でした。抵抗があった言葉です。しかし、特別に取り上げなければならないほど、食品の安全性や食事などへの心配りがなくなってきているのでしょうか。

○　学校は積極的に食の指導に取り組んでおり感心しています。県から学校に資料の提供や食育の講師を派遣してほしいです。地域・保護者・祖父母を対象に地域ぐるみでの活動となるよう希望します。

● 食事と健康づくりについて

○　子ども達の食生活の好き嫌いや現代食の変化により、様々な健康への障害が出てきています。昔の食生活へ見直すことを推進すべきです。
○　自宅で作る料理をなるべく食べるようにしています。食についての知識を学び、情報を集めています。食に関する講座や食品のもつ特性などにも興味があり、とにかくお医者さんなどの世話にならないように日常より注意し、１日２０～３０分位運動するようにしています。
○　子供の食生活が洋風化し手軽にとれる食生活になっているようです。野菜離れや地元の産物の作り方が、年々廃れてきているように思います。また栄養のバランスのとれた食事を心がけないと、健康を害することにもなります。食事がいかに人体にとって大切か教育することが大切です。
○　食事をとることは重要なことです。病気に対する抵抗力をつけるなど健康を守る上でも大切です。

● 地場産農水畜産物の販売店について

○　地域特産の野菜は数多くありますが、スーパーにはあまり置いてないです。朝市や直売所よりもスーパーや小売店で多く扱ってほしいです。
○　直売所等をもっと活用していきたいです。
○　スーパーやデパートに地場産コーナーがあればいいと思います。
○　テントでもいいので産直販売所の数を増やして、生産者と消費者が心の通い合う売買ができたらよいと思います。
○　県内で生産している農産物をもっと多く県内で購入できるようにしてほしいです。
○　地場産の野菜などはスーパーや小売店などではあまり売られていないし、価格が高くて輸入物と開きがありすぎます。
○　漁師の町ですが、地元でとれた魚を手に入れる機会が全くありません。
○　「地場物を愛しましょう」と言いながらも、他県のトマトを売る店がありました。
○　地場農産物の販売を新潟ふるさと村やデパート等でもっと多く開いてほしいです。
○　最近はスーパーの生産者コーナーを安心して利用しています。近くに直売所などがあったら利用したいです。地場産農産物にもっと関心を持って地産地消運動に参加したいと思います。
○　地域産が見えて求めやすい環境がほしいです。

● 地場産農水畜産物の販売方法について

○ 地場産物の直売やＰＲイベントを各地域のイベントホールなどで季節の産物を中心に開催してほしいです。地場のものをその場で食べたり、買ったりと家族そろって出かける目的ができます。また、地元のことも教えられて子供ともふれ合えます。
○ 新鮮な米・野菜・肉等の地場の農産物を安定的に住民に供給してほしいです。
○ 肉や魚は県外への出荷が多く、スーパー等での価格が高いです。多少高くても品数や種類が豊富であれば消費者も購入しやすいです。生産者の意識も大切です。
○ 鮮魚類は昔田舎でやっていた振り売りを提案します。オートバイや小型の車で新鮮な魚を手に入れられれば、出かけなくていいので便利です。
○ 県内産の食材が出ていると安心して調理ができます。新潟県内産がいつも店頭に出ていることを要望します。

● 規格外農水畜産物の販売について

○ 野菜などで基準に足りない商品を安く買えるようなところがほしいです。
○ 「おいしい物をおいしく食べる」誰もが希望することですが、姿形がよく、痛んでいない物を求めるあまり、素朴な味の良さが失われていくようで寂しく思います。
○ 規格にこだわらずB品として堂々と売ってほしいと感じます。スーパーの片隅などで申し訳なさそうに置かれているのを見ると心が痛みます。
○ 野菜等も見た目ばかりよい物といわず、曲がったキューリ・小さい玉葱・じゃがいも等も出店して格安に消費してほしいです。
○ 形や見た目が悪いだけで、魚・野菜などが新鮮でも捨てられています。そのため農家（生産者）は、農薬等をさらに使用して見た目をよくした食べ物を生産しているように思います。もっと安全性の高い、少し虫が食べても売るような野菜を消費者も気にせず買う社会システムが必要だと思います。

● 地場産農水畜産物の消費について

○ 地場産農産物を地元でもっと消費してほしいです（特に公共的な施設[学校・特老など]）。価格やしがらみ等で解決が難しいと思いますが、検討願います。
○ 学校給食は県内産を使ってほしいです。
○ 新鮮な食材をこれからもずっと食べたいです。そのため地元生産者を育てなければいけないので、特に学校給食等（保育園も含む）は地産地消にこだわってほしいです。
○ これからは、より地場産にこだわり利用したいと思います。食材を活かし、食を楽しんでいきたいと思います。
○ 米をたくさん食べるように指導すべきです。

● 地場産農畜水産物のＰＲについて

○　地場産農産物のＰＲが足りません。もっと住民にＰＲしてください。市報などに載せるだけでなく、スーパーや小売店に行ったときに地場産農産物についてわかるように、業者と連携を取ってＰＲを進めてください。
○　食生活の多様化により、お米の消費が減少しているのが残念です。手軽に食べられるパンはブームにのっておしゃれな感じがすることがプラスになっていると思います。もう少しメディアを通して「和食＋ごはん」は良いということをアピールしてほしいです。
○　農家自身の広報が不足だと思います。
○　地場産農産物の安全性に関するＰＲや調理方法等の説明会があればいいと思います。
○　地方紙だけでなく全国紙にもイベント情報を載せてほしいと思います。
○　もっと消費者に食の安全ということをわかってもらい、地場の食物を宣伝した方がいいと思います。
○　地場産農産物のおいしい食べ方などを説明してほしいです。

● 家庭・地域・伝統の食事・料理について

○　やっぱり、小さい子供の頃からの食育が大切だと思います。子ども達には、食材のもつおいしさをなるべく活かす料理を心がけています。
○　家庭での手作り料理「おふくろの味」や「田舎料理」を次世代・若い奥様方に伝授・継承すること、県内の食文化に関する情報誌の発行、高校生への給食、高校生への基本的な料理教育が必要だと思います。
○　ファーストフードやコンビニエンスストアは、簡単に利用でき時間の節約ができてよいと思います。ただ成長段階にある子ども達にはできるだけ利用する機会を少なくしてほしいです。子供ができたらなるべき利用しなくていいよう、家庭の味・家族で囲む楽しい食卓・バランスのよい食事を心がけていきます。
○　食は心を育てるというのに、現代は手作り料理をせず、スーパーでできた物を平気で買う時代です。自分で作った物は捨てず、冷凍するなり大事に食べるはずです。スーパーなどでは、売れなければ全部捨てるわけでもったいないことです。これからは生活体験を大事にしていくことが課題だと思います。家族で何を大切にしていくべきか親がしっかり考えなければなりません。
○　地域の伝統野菜や伝統食などをより広く知らせてほしいです。

● 生産者の確保について

○　私は畜産関係の仕事に関わっています。地産地消を推進していますが問題があります。新潟県内の和牛の生産頭数が足りないのです。今後は農家の後継者育成が課題だと思います。１０年後には県内に牛肉生産農家がいなくなってしまいます。

○　地産地消を推奨するためには、もっと店頭に出回るようにし、生産者を増やすなど後継者の育成にも力を入れるべきです。

○　生産者は高齢なので、もっと若い人達が農業に関心をもてる環境を作ってもらいたいです。これから先が心配です。今の若い人達は、野菜の名前やどんなところでどのように作られているかわからない人がほとんどです。

○　地場産農産物の生産を増やすよう努力する必要があります。荒れ放題の田畑や山林も手がけられる仕組みを作ったらどうでしょうか。新聞の投書欄に投稿されていましたが、これから定年退職をする方々の働く場として、農業や土いじりをする気のある人に田畑を無償で貸して耕作をしてもらってはどうでしょうか。

○　本県は改良された広大な農耕地がある農業県ですから、もっと畜産も含めた農産物を作り、地産地消のみならず、よい農産物を全国に移出できる農業を再構築し農業経営者を育成することが重要です。

● 生産者と消費者の関係について

○　地域振興のためにも「地産地消」を応援したいと思っています。生産者に望むことは「品数」「品質」「価格」の面で更に努力することです。生産者・消費者相互間の「信頼」が何よりも大切だと思います。

○　生産者と消費者が間接的なつながり（生産者個人→スーパー・デパート→消費者）に留まっているケースが多いです。生産者個人から組合と発展させ、効率的で魅力のあるＰＲや消費者個人へのメール等で濃いつながりを作っていくことが大切です。

○　新潟県内でも野菜の契約栽培をして計画的な供給を進めてほしいです。大量供給で安くなり、農家の原価割れや品不足による高値になっては両者が困ります。

○　地場をもっと売り出し新鮮で安全な野菜が手に入るといいのですが、スーパーの高額で産地もままならない物を購入しているのが現状です。農家と直結できれば最高です。

○　日本の食文化は地域の人々が守らなければならないと思います。今こそ、米国肉・ＢＳＥ・農薬の安全性などのついて、生産者・消費者が互いに理解していく必要があります。マスコミはそういう大切なことを取り上げず、当事者の責任ばかり報道しています。行政は、生産者・消費者と話し合う場の提供や機会を設けるべきです。

● 自家栽培について

○　私も数年前から自家用に何種類かの野菜を作っています。周囲の方は沢山の野菜を作っていますが、結局は消耗しきれなくって畑の肥やしになっているのをみるととても残念で悲しくなります。外に生かせる方法はないものかといつも考えます。捨てずに済むような手段があれば、もっと楽しく野菜作りができると思います。

○　食料自給率を上げることが必要だと思いますが、個人が何を重視するか判断することは難しいです。いずれは私も自分で何かを育てたいとは思っていますが、趣味で作るということは、金銭的な余裕がないとできないと思います。

○　食べきれない分の野菜を友人・知人に配っていたら、都心部に住む方から安心な野菜を食べたいから季節ごとに送ってくれないかという話をもらいました。少しでもいいからやってみようかなと考えています。自家用にほとんど無農薬に近い作り方を進めていますし、捨てるのももったいないし、かといって大量に販売する物でもないので、まずは顔の見える所からやってみようと思います。

○　母が近くの畑で野菜を作っているので、季節ごとに新鮮なものを食べることができ幸せです。自分が畑で野菜作りをするとなると、仕事上の時間の都合や子ども達に時間をとられてしまうので難しいと思います

● 流通ルートについて

○　私は小売店で食料品を販売いたしています。地場産の農産物を季節感と旬を売りに販売したいと思うのですが、市場に出荷される物以外は手に入れる手段がありません。生産者の方も地元で売りたいとの声を聞きます。入荷ルートと情報提供が必要です。

○　水産物では、水揚げ後大消費地域への発送が優先されて、県内末端に至る流通が未整備なため鮮度や価格面で優位にないように思います。

○　農水産物の流通ルートの整備確立が必要です。

● 農林水産業の振興について

○　地域の産業を育てる意味もあり、価格だけではなく（経済性）子ども達の教育のためにも地場産業を守るのは当然のことだと思います。農家が丹誠込めただけの価値に見合う労働報酬が保証される世の中になってほしいです。農業が国土保全になっていることもあり、経済性だけに目を向けず将来をみすえて産業を守っていくべきです。

○　流通機能が発達していることから地場産に固執することなく、産地間競争や流通の向上に努め、新鮮で良いものが多く購入できることを望みます。

○　付加価値のある地場産農産物づくりが必要です。

● 新潟県産品の魅力について

○ 新鮮・安全でその上美味しければ何よりです。他県に出てみると県内で食べる食品（県内産）は、美味しいと思います。
○ 新潟県は米・葉野菜（山菜含む）・水産物に大変恵まれています。加えて、食材の安定供給で生活の向上・健康の増進が図られており、「食」に対し感謝しています。

● 食品への表示について

○ スーパーの地場野菜コーナーに野菜の農薬表示を義務付けてほしいです。購入しても薬の香りがして食せないときがあります。買うのをやめようと思うときもあります。
○ 産地の偽装等があるので信頼できません。
○ 表示されている項目の内容の説明が不十分です。

● 今回のアンケート調査について

○ 役所（県・国）がなぜ食に関して理論立てするのか理解できません。「食育」「地場産農産物」「地産地消」、役所の皆さんは、こんな言葉を一般市民がどれくらい理解しているか考えてください。
○ アンケートを有効に使って私たち消費者の食の安全が守られるようお願いします。
○ このアンケートのおかげで食育の意味を知ることができました。食に関する知識をもっと知りたいです。

● その他

○ 親戚・同級生・近所の知人からいろいろ情報が伝わりますので、一緒に買ったりして楽しみながら料理を作っています。
○ 食品が輸入されなくなったらどうなるか心配です。